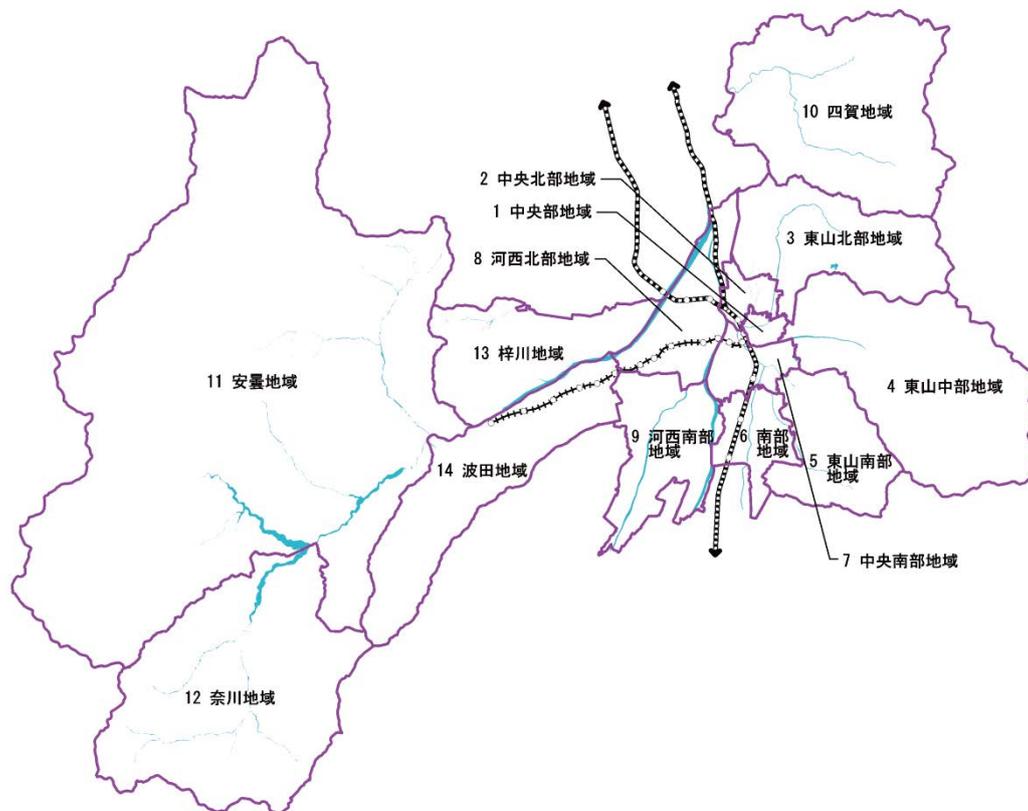


## 第4 地域別構想

全体構想をより市民の生活に密着した具体的な構想とするために、市内の各地域によりクローズアップした地域別構想を設定します。クローズアップする地域は、主要な都市機能や地域施設及びこれらをつなぐネットワークが明らかになるよう、以下の14ブロックに区分します。

各地域の概況を踏まえて、将来像やまちづくりの方針を定めます。また、個性と魅力づくりを進めるために地域の拠点、土地利用区分、整備方針を定め、地域の資源を活かした取組みを隣接地域間の整合性・一体性にも配慮しながら進めます。

● 地域区分図



● マスタープランの地域区分

地域区分		地区名	地域区分		地区名
1	中央部地域	中央・東部・第一・第二・第三	8	河西北部地域	島内・島立・新村
2	中央北部地域	白板・城北・安原・城東	9	河西南部地域	和田・神林・笹賀・今井
3	東山北部地域	岡田・本郷	10	四賀地域	四賀
4	東山中部地域	里山辺・入山辺	11	安曇地域	安曇
5	東山南部地域	中山・内田	12	奈川地域	奈川
6	南部地域	芳川・寿・寿台・松原	13	梓川地域	梓川
7	中央南部地域	田川・鎌田・松南・庄内	14	波田地域	波田

# 1 中央部地域（中央地区・東部地区・第一地区・第二地区・第三地区）

## (1) 地域の概況

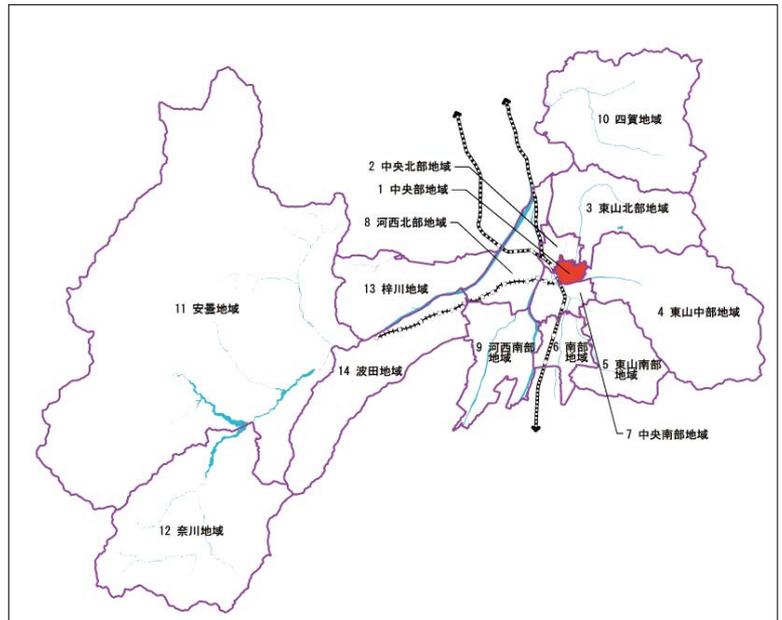
中央部地域は、城下町として栄えた松本市における古くからの中心市街地であり、松本駅お城口周辺の商業業務地は県内有数の規模であり、松本平における都市活動の中心を担っている地域です。

地域内には、国宝である松本城、旧開智学校、国の重要文化財である旧松本高等学校を始めとした歴史的建築物が多く残されているほか、薄川、女鳥羽川、長沢川などの河川や源智の井戸など市民に身近な水辺環境が随所に残されています。こうした歴史的資源を

活かしつつ、多世代が住まい、交流活性化による賑わい<sup>にぎ</sup>を創出するための都市デザインを進めるとともに、歩行者の回遊や自転車利用を促すための取組みを進めてきました。これらの取組みを継続していきながら、まちの魅力創出や防災性の向上等に資するグリーンインフラの導入を積極的に図っていく必要があります。

本地域は、様々な商業施設等が立地する生活利便性が高い地域となっていますが、少子高齢化が進み、独居高齢者などの買物や外出を支えていく必要があります。また、空き家の利活用の更なる促進等が課題となっています。

●計画対象区域



国宝松本城



松本駅

## （2）地域別構想

### ① 将来像

#### 「歴史的遺産や豊かな水と緑を活かした松本広域都市圏の中心拠点」

- 松本広域都市圏の中心として、多様な都市機能が集約された商業業務地
- 来街者等が城・蔵・寺・水を巡り、松本の文化を楽しめる観光商業地
- 安全・快適な都市型住宅地

### ② まちづくりの方針

松本城～松本駅～あがたの森を中心とする中心市街地は、松本広域都市圏の中心拠点として多様な高次都市機能を集約し、利便性が高く、また文化を楽しめるまちを目指します。

松本城を始めとする歴史的建造物の保全、美術館や市民芸術館などを利用した芸術活動の活発化、個性的な商業の振興、歩行者優先に配慮した交通環境の改善などにより、松本の文化を歩いて楽しめるまちを目指します。

住環境では、空き地や空き家などの有効活用を図り、多様な世代や世帯のライフスタイルに対応した高密度な住環境を目指します。



あがたの森



歩いて楽しめるまち

### ③ 拠点形成と土地利用

本地域の拠点及び土地利用区分を次のように定めます。

拠点形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>●都市中心拠点（中心市街地の都市機能誘導区域内）</li> <li>●コミュニティ拠点（中央地区、東部地区、第一地区、第二地区、第三地区の地域づくりセンター周辺）</li> <li>●医療拠点（相澤病院）</li> <li>●歴史・文化・観光拠点（国宝松本城・国宝旧開智学校周辺、あがたの森）</li> </ul>		
土地利用	都市的開発整備ゾーン	商業業務系	中心商業業務地区（松本駅周辺）、 都市型複合業務地区（中心商業業務地区からあがたの森までの市街地）
		産業系	—
		住宅系	都市型住宅地区（松本城の北側の住宅地）、低層住宅地区（あがたの森の北側の住宅地）
	農業環境保全ゾーン	—	
自然環境保全ゾーン	公園緑地（松本城、あがたの森）		

#### ④ 整備方針

##### 【施設整備】

###### ○歩行者優先の道路空間の形成

- 松本城、松本駅、あがたの森を結ぶエリアの道路は、歩行者優先の空間として再構築します。
- 中心市街地への通過交通の分散に必要となる幹線道路等について優先的な整備を進めます。
- 買物等をしながら回遊を楽しめるようにするための滞留・休憩ができる環境を整備します。

###### ○駅周辺の交通結節機能の充実

- 松本駅周辺におけるにぎわいを創出するために、交通事業者等との連携により、鉄道・バス・自転車等の交通手段のシームレス化や各施設の整備等を推進します。

###### ○河川の水辺と一体となった環境整備

- 河川の水辺環境と一体となった散策路整備を進め、うるおいのある街並み景観を形成します。

###### ○歴史的建築物の耐震化

- 松本城、旧開智学校校舎、旧制松本高等学校の建物耐震化を進め、周辺環境も含めた環境整備を進めます。

###### ○防災・避難空間の充実等

- 災害発生時の市街地における防災・避難空間の充実等に向けて、都市計画道路の整備、狭あい道路の拡幅を推進します。
- 河川氾濫による甚大な浸水被害が想定される区域では、既存公共施設の安全の確保を進めるとともに、民間建築物の災害リスク低減に向けた対策を検討します。

##### 【公共交通】

###### ○鉄道の利便性の向上

- 都市中心拠点へのアクセス性の維持・向上に向け、交通事業者等との連携により、JR篠ノ井線、JR大糸線、アルピコ交通上高地線の利便性向上を図ります。

###### ○幹線バス路線等の利便性の維持、充実

- 中心市街地と各地域の拠点間を支えるバス路線の利便性（路線・本数・時間）の維持・充実を図ります。
- 中心市街地の居住者及び来訪者の移動を担保するため、松本駅と中心市街地の各施設を接続する中心市街地バスの充実を図ります。

###### ○自転車を利用しやすい交通環境の形成

- 交通結節点等の周辺においてシェアサイクルの普及を促進します。
- あがたの森に向かうあがたの森通り（駅前通り）、松本城に向かう本町通り、大名町通りでは、市民や観光客が安全・安心・快適に通行できるよう自転車通行空間の整備を推進します。

**【環境保全形成】**

## ○松本城三の丸エリアビジョンの実現に向けたまちづくり

- 二つの国宝を有する松本城三の丸及びその周辺について、歴史の積み重ねや特性を活かしたまちの将来像を示し、多くの市民と連携して各種事業を推進し、実現を目指します。

## ○城下町にふさわしい賑わいと風格のあるまちなみの形成

- まちづくり協定による住民主体の取組みを継続するとともに、建築物の新築・改修に対する景観誘導や修景支援を行います。
- 歴史的景観に配慮した道路改良や電柱の地中化により、城下町にふさわしい景観形成を図ります。
- 商業や金融の中心地として発展してきた歴史的経緯を踏まえ、建築物等の高さ・色彩や屋外広告物等に対する制限を適切に導入するなど、賑わいと風格のある景観の創出を図ります。

## ○既存ストックの活用による賑わいの創出

- 空き家・空き店舗等の有効活用による商業活性化とまちなか居住の推進を図ります。
- 来街者が心地よく回遊できるよう、オープンカフェでの活用など、道路を始めとする公共空間の効果的な使い方を推進します。

## ○水辺空間を活用したうおいのある景観の形成

- 湧水・水路を活かした水辺づくりと周辺の景観整備を進めます。
- 生物の生息・生育に適した水質の改善や水辺環境の整備を図ります。
- 女鳥羽川、薄川などの河川では、まちの賑わい創出につながる利活用を促しながら、「かわまちづくり事業」として川と一体となったまちづくりを進めます。

## ○グリーンインフラの導入

- 学校、官公庁、文化施設などの公共公益施設の敷地、公園や道路などの公共空間では、維持管理に関する労力や費用等も勘案しながら、効果的な緑化を推進します。
- 小さな空間を活用した緑の配置や屋上・壁面を利用した緑化を推進します。

## ○あがたの森公園と調和する住宅地景観の形成

- 重文旧制松本高等学校校舎と一体となった緑地整備の促進と周辺建築物や広告物等のデザインの規制・誘導を図ります。
- あがたの森通りにおける緑化や歩道のデザイン化、ブロック塀の生垣化等を推進することにより、あがたの森と調和する緑の街並み景観を形成します。

●中央部地域 整備方針図



凡例

土地利用区分

- 中心商業業務地区
- 都市型複合業務地区
- 複合業務地区
- 地域商業地区
- 学術・医療地区
- 健康・スポーツ地区
- 工業地区
- 流通業務地区
- 複合産業地区
- 都市型住宅地区
- 低層住宅地区
- 田園集落地区
- 山間集落地区
- 森林・丘陵緑地
- 公園緑地
- 河川
- 交通施設用地

道路種別

- 高速道路
- 高規格道路
- 主要幹線道路
- 幹線道路

公共交通

- 鉄道 (JR)
- 鉄道 (その他)
- バス (主要幹線、幹線)

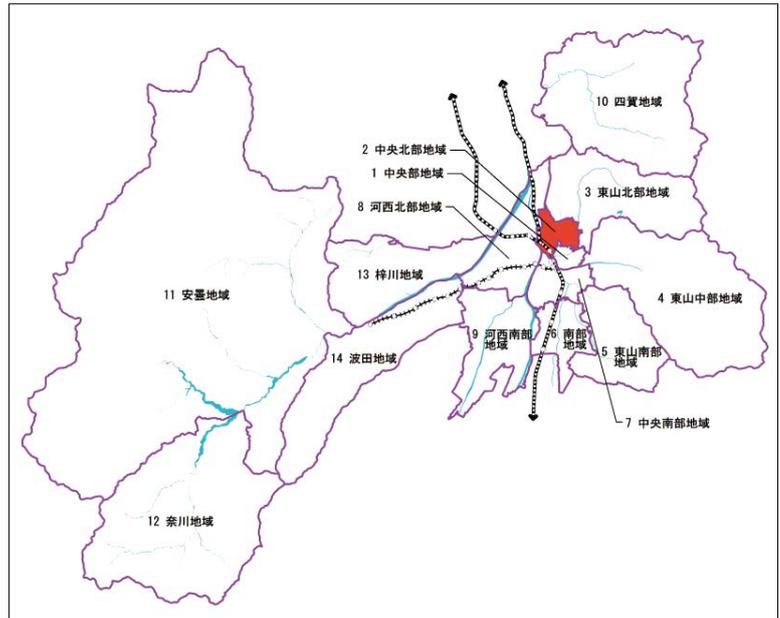
## 2 中央北部地域（白板地区・城北地区・安原地区・城東地区）

### （1）地域の概況

中央北部地域は、中央部地域の商業業務地に連担し、城山丘陵とその裾に広がる丘陵地の住宅地によって構成されています。城山公園からアルプス公園を含む丘陵地や、女鳥羽川、大門沢川などの河川は、自然とふれあうことのできる憩いの場となっています。

また、高度な医療施設として信州大学医学部附属病院が立地するほか、信州大学の本部を置く松本キャンパスを始め、複数の高校など多くの学校が存在し、国宝旧開智学校、松本神社などから続く、歴史的建造物や神社仏閣を含めた風情ある街並みと相まって、文教的・歴史的な地区ともなっています。

地域内には木造の密集住宅地が存在し、地震時における火災の延焼や道路閉塞などが危惧されています。また、空き家の利活用の更なる促進などが課題となっています。



### （2）地域別構想

#### ① 将来像

#### 「豊かな自然や歴史文化と調和したうらおいのある文教のまち」

- 2つの国宝「松本城」「旧開智学校」から続く文教的・歴史的雰囲気と調和する緑豊かな住宅地
- アルプス公園や城山公園を活かした緑の公園のまち

#### ② まちづくりの方針

アルプス公園を中心とする自然交流ゾーンの整備を図るとともに、アルプス公園や城山公園の緑、国宝旧開智学校の文化的雰囲気と調和する文教住宅地の保全・整備を図ります。

信州大学の学術・医療機関としての機能の維持・充実を図るとともに、周辺地域において生活に必要な施設の立地の維持、誘導を図るなど、歩いて暮らしやすい環境を整えます。

③ 拠点形成と土地利用

本地域の拠点及び土地利用区分を次のように定めます。

拠点形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域拠点（信州大学周辺）</li> <li>● 生活拠点（桐）</li> <li>● コミュニティ拠点（白板地区、城北地区、安原地区、城東地区の地域づくりセンター周辺）</li> <li>● 医療拠点（信州大学医学部附属病院）</li> <li>● 産業・研究拠点（信州大学）</li> <li>● 自然交流拠点（アルプス公園）</li> </ul>		
	土地利用	都市的開発整備ゾーン	商業業務系
産業系			—
住宅系			都市型住宅地区（中環状線の内側の住宅地）、低層住宅地区（中環状線の外側の住宅地）
農業環境保全ゾーン		田園集落地区（丘陵地の裾に広がる農地）	
自然環境保全ゾーン	森林・丘陵緑地（アルプス公園を擁する丘陵地）		



信州大学周辺（地域拠点）



国宝旧開智学校

④ 整備方針

【施設整備】

○アルプス公園の活用と歴史・文化・観光拠点までを相互に結ぶ利用空間の形成

- アルプス公園の施設整備による景観や緑を活かした魅力ある空間の創出と、その周辺の芥子坊主山市民の森の自然交流拠点と一体的な利用を図ります。
- アルプス公園～城山公園～旧開智学校を相互に結ぶ散策路等の利用空間の形成を図ります。



アルプス公園

### ○幹線道路網の形成

- 中心市街地における通過交通の分散に資する幹線道路等の優先的な整備を進めます。

### ○歩行者、自転車の安全の確保

- 市民や観光客の歩行者・自転車利用の安全を確保するために、幹線道路及び生活道路における歩道や自転車通行空間の整備を進めます。

### ○市街地における防災・避難空間の充実等

- 災害発生時の市街地における防災・避難空間の充実等に向けて、都市計画道路の整備、狭あい道路の拡幅を推進します。

## 【公共交通】

### ○幹線バス路線等の利便性の維持、充実

- 地域拠点・生活拠点と中心市街地間の移動や地域内移動を支えるバス路線の利便性の維持、充実に向けた、路線・本数・時間の見直しを図ります。

### ○自転車を利用しやすい交通環境の形成

- 中心市街地と郊外部を繋ぐ<sup>つな</sup>自転車通行空間の整備を進めます。

## 【環境保全形成】

### ○文教住宅地にふさわしい景観の形成

- 城山公園を含む丘陵地に広がる閑静な住宅地、信州大学を始めとした多くの教育機関が立地する住宅地であることを踏まえた、文教住宅地にふさわしい景観の形成を図ります。

### ○城山の丘陵地景観の保全

- 市街地からの良好な自然景観を構成する城山の丘陵地の景観を保全するため、城山風致地区における自然景観、眺望景観の保全を図ります。

### ○歴史的・伝統的街並み景観の整備・保全

- 松本城を始め、城下町の歴史的な街並みや街路、旧開智学校など、全体として歴史的町割りを色濃く残す景観要素から構成されている地区を中心に、伝統的な街並み景観の整備保全を図ります。

### ○水辺空間の安全の確保、景観の形成

- 奈良井川・女鳥羽川の河川改修により、水辺環境を活かした景観形成を図ります。

●中央北部地域 整備方針図



凡例

土地利用区分

- |             |           |
|-------------|-----------|
| ● 中心商業業務地区  | ● 都市型住宅地区 |
| ● 都市型複合業務地区 | ● 低層住宅地区  |
| ● 複合業務地区    | ● 田園集落地区  |
| ● 地域商業地区    | ● 山間集落地区  |
| ● 学術・医療地区   | ● 森林・丘陵緑地 |
| ● 健康・スポーツ地区 | ● 公園緑地    |
| ● 工業地区      | ● 河川      |
| ● 流通業務地区    | ● 交通施設用地  |
| ● 複合産業地区    |           |

道路種別

- 高速道路
- 高規格道路
- 主要幹線道路
- 幹線道路

公共交通

- 鉄道 (JR)
- 鉄道 (その他)
- バス (主要幹線、幹線)

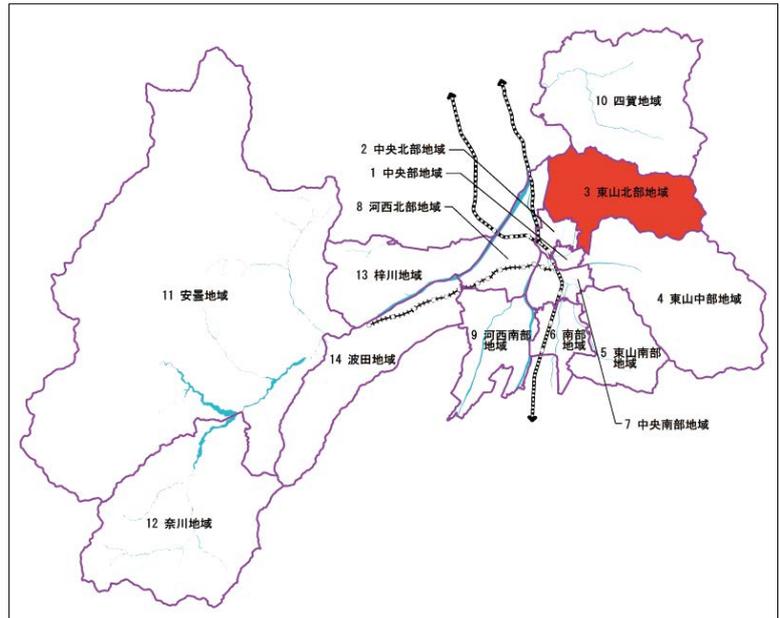
## 3 東山北部地域（岡田地区・本郷地区）

### （1）地域の概況

東山北部地域は、城山丘陵と東山山系、そしてこれらの裾に広がる農地と住宅地によって構成されています。地域内に松本文化会館、総合体育館などの文化・スポーツ交流施設や周辺には信州大学などの文教施設が数多く整備されており、セイジ・オザワ 松本フェスティバルをはじめとする松本市を代表する様々なイベントが開催される場所となっています。

また、四季折々の素晴らしい大自然に囲まれた浅間温泉は、日本書紀に開湯天武年間とある1300年の歴史を誇る名湯です。

しかし、国道143号においては、周辺自治体から中心市街地に向かう交通量が多く、朝夕の通勤時間帯を中心とした交通渋滞の解消が課題となっています。また、山間部では土砂災害が想定されている区域があり、安全な避難を可能とするための対策が必要となっています。



### （2）地域別構想

#### ① 将来像

#### 「豊かな緑と調和した音楽・スポーツ・温泉のまち」

- 音楽・スポーツ・温泉等の多彩な文化と調和する緑豊かな住宅地
- 美鈴湖、芥子坊主山市民の森一帯の貴重な自然とふれあえるまち

#### ② まちづくりの方針

美鈴湖、芥子坊主山市民の森一帯の貴重な自然環境の保全・活用を図るとともに、松本市を代表する音楽・スポーツ・温泉などの多彩な文化と調和する住宅地として整備します。

### ③ 拠点形成と土地利用

本地域の拠点及び土地利用区分を次のように定めます。

拠点形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生活拠点（岡田、浅間、惣社）</li> <li>●コミュニティ拠点（岡田地区、本郷地区の地域づくりセンター周辺）</li> <li>●歴史・文化・観光拠点（浅間温泉）</li> <li>●自然交流拠点（美鈴湖・芥子坊主山市民の森）</li> </ul>		
土地利用	都市的開発整備ゾーン	商業業務系	健康・スポーツ地区（浅間温泉地区）
		産業系	—
		住宅系	低層住宅地区（浅間温泉の西側、南側の住宅地）
	農業環境保全ゾーン		田園集落地区（女鳥羽川沿いに広がる農地）
自然環境保全ゾーン		公園緑地（八ヶ岳中信高原国定公園）、森林・丘陵緑地（八ヶ岳中信高原国定公園以外の丘陵地）	



岡田地区地域づくりセンター周辺



浅間温泉

### ④ 整備方針

#### 【施設整備】

#### ○歴史・文化・観光拠点内でのうるおいある歩行空間の形成

- 浅間温泉地区や松本文化会館・総合体育館周辺地区における、うるおいのある歩行空間の整備を進めます。

#### ○市街地・美鈴湖・美ヶ原高原を結ぶ道路ネットワークの充実

- 市街地と美ヶ原高原の相互誘客を促進するため、観光車両や自転車の利用を想定し、市街地～美鈴湖～美ヶ原高原を結ぶ道路の機能向上を図ります。

#### ○丘陵部の自然交流拠点を相互に結ぶ散策路の形成

- 美鈴湖周辺や芥子坊主山市民の森一帯の自然交流拠点を相互に結ぶ散策路の整備を進めます。

#### ○市街地における防災・避難空間の充実等

- 災害発生時の市街地における防災・避難空間の充実等に向けて、都市計画道路の整備、狭あい道路の拡幅を推進します。

#### ○土砂災害の防止・被害の低減

- 土砂災害警戒区域及び特別警戒区域の危険周知、避難体制整備等の対策を推進します。

**【公共交通】**

## ○幹線バス路線の利便性の維持、充実

- 生活拠点と中心市街地間の移動を支えるバス路線の利便性の維持、充実に向けた、路線・本数・時間の見直しを図ります。

## ○地域の暮らしを支えるバス路線の利便性の維持、充実

- 地域内移動について、地域の実態や需要に応じた最適な交通サービスの構築を検討します。
- 山間部のバス路線について、利用状況等を考慮した利便性の向上を検討します。

## ○自転車を利用しやすい交通環境の形成

- 中心市街地と郊外部を繋ぐ<sup>つな</sup>自転車通行空間の整備を進めます。

**【環境保全形成】**

## ○情緒や魅力ある温泉街の形成

- 温泉街とスポーツ施設との連携による魅力づくりを進めるとともに、歴史的温泉街としての<sup>ただ</sup>佇まいを活かし、歩いて風情を感じる景観の形成を図ります。
- 浅間温泉付近の住宅地では、歴史的温泉街と調和する落ち着いた<sup>つな</sup>景観の形成を図ります。

## ○多彩な文化・スポーツ施設と調和する住宅地景観の形成

- 浅間温泉周辺や文化・スポーツ施設及び教育施設周辺の住宅地では、建築物や屋外広告物の誘導により山並みと調和のとれた良好な街並みの形成を図るとともに、ブロック塀の生垣化等を促進します。

## ○貴重な自然景観の保全

- 市街地からの良好な自然景観を構成する芥子坊主山市民の森周辺及び東山山系の自然緑地の保全を図ります。
- 芥子坊主山市民の森周辺の施設整備では、市街地からの眺望に配慮します。

● 東山北部地域 整備方針図



凡 例

土地利用区分

- |             |           |
|-------------|-----------|
| ● 中心商業業務地区  | ● 都市型住宅地区 |
| ● 都市型複合業務地区 | ● 低層住宅地区  |
| ● 複合業務地区    | ● 田園集落地区  |
| ● 地域商業地区    | ● 山間集落地区  |
| ● 学術・医療地区   | ● 森林・丘陵緑地 |
| ● 健康・スポーツ地区 | ● 公園緑地    |
| ● 工業地区      | ● 河川      |
| ● 流通業務地区    | ● 交通施設用地  |
| ● 複合産業地区    |           |

道路種別

- 高速道路
- 高規格道路
- 主要幹線道路
- 幹線道路

公共交通

- 鉄道 (JR)
- 鉄道 (その他)
- バス (主要幹線、幹線)

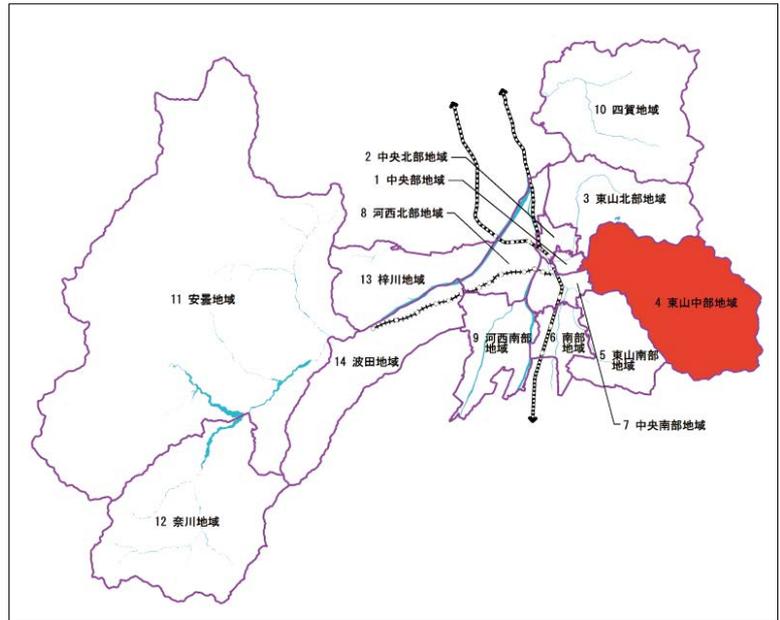
## 4 東山中部地域（里山辺地区・入山辺地区）

### （1）地域の概況

東山中部地域は東山山系と薄川沿いの農地及び住宅地によって構成されています。東山山系の一部は八ヶ岳中信高原国定公園に指定されており、これらの山並みが形成する稜線は市街地からの重要な景観要素となっています。

長野県ぶどう発祥の地としても知られ、地域の特産品である山辺ぶどうを中心とした果樹栽培が行われています。

山間地では人口減少と高齢化が顕著に進み、生活利便性やコミュニティの維持が課題となっています。また、遊休荒廃農地が見られ、地域の活性化や農地の保全などが課題となっています。山間部では土砂災害が想定されている区域があり、安全な避難を可能とするための対策が必要となっています。



### （2）地域別構想

#### ① 将来像

#### 「湯けむり・ぶどう・歴史を活かした山ふところの里」

- 歴史ある都市近郊型の温泉観光地
- ぶどう・遺跡を活かした個性豊かな山ふところの里(ぶどうの里づくり)
- 美ヶ原高原と三城一帯周辺の良好な自然環境とふれあえるまち

#### ② まちづくりの方針

美ヶ原温泉街を歴史・文化・観光拠点として位置付け、浅間温泉及び周辺のスポーツ施設と連携しながら、温泉街としての魅力づくりに加え、良好な水と緑の環境をもつ美ヶ原高原、三城一帯を自然交流拠点として整備します。また、山辺ぶどうなどの地域特有の資源や古墳、古寺、古城などの歴史資源を活かした地域産業づくりをすすめ、里山景観と調和した山ふところの里として整備します。

### ③ 拠点形成と土地利用

本地域の拠点及び土地利用区分を次のように定めます。

拠点形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コミュニティ拠点（里山辺地区、入山辺地区の地域づくりセンター周辺）</li> <li>● 歴史・文化・観光拠点（美ヶ原温泉）</li> <li>● 自然交流拠点（美ヶ原高原、三城一帯）</li> </ul>		
土地利用	都市的開発整備ゾーン	商業業務系	健康・スポーツ地区（美ヶ原温泉地区）
		産業系	—
		住宅系	低層住宅地区（地域西部の住宅地）
	農業環境保全ゾーン		田園集落地区（薄川沿いに広がる農地）
	自然環境保全ゾーン		公園緑地（八ヶ岳中信高原国定公園）、森林・丘陵緑地（八ヶ岳中信高原国定公園以外の丘陵地）

### ④ 整備方針

#### 【施設整備】

#### ○幹線道路網の形成

- 都市計画道路出川浅間線の整備を進めます。

#### ○交通の安全性の向上

- 自動車・歩行者・自転車交通の安全性の向上に向けた道路の拡幅、安全対策等を推進します。

#### ○自然交流拠点と周辺のレクリエーション施設等の一体的活用

- 美ヶ原高原、三城一帯とその周辺のレクリエーション施設等を一体的に活用し、自然と親しみ、ふれあえる空間形成を進めます。

#### ○ぶどう園や遺跡を巡る回遊型散策路の設定と整備

- 山辺ぶどう園や、山辺ワイナリー、針塚古墳、林城趾、中入城跡（山家城跡）、桐原城跡等、美しい景観を楽しみながら巡る回遊型の散策路整備を進めます。

#### ○市街地における防災・避難空間の充実等

- 災害発生時の市街地における防災・避難空間の充実等に向けて、都市計画道路の整備、狭あい道路の拡幅を推進します。

#### ○土砂災害の防止・被害の低減

- 土砂災害警戒区域及び特別警戒区域の危険周知、避難体制整備等の対策を推進します。

#### ○公共施設や公民館、空き地等の利活用

- 地域と行政が連携し、生活の快適性や利便性の維持・向上、コミュニティの醸成等の観点から、公共施設や公民館、空き地等の利活用を検討します。

**【公共交通】**

## ○幹線バス路線の利便性の維持、充実

- 生活拠点と中心市街地間の移動を支えるバス路線の利便性を維持、充実に向けた、路線・本数・時間の見直しを図ります。

## ○地域の暮らしを支えるバス路線の利便性の維持、充実

- 地域と生活拠点間の移動を支えるバス路線について、利用状況等を考慮して利便性の向上を検討します。
- 地域内移動について、地域の実態や需要に応じた最適な交通サービスの構築を検討します。

**【環境保全形成】**

## ○情緒や魅力ある温泉街の形成

- 温泉街とスポーツ施設との連携による魅力づくりを進めるとともに、看板や表示板の周辺の街並みとの調和や、歩行空間の充実と緑化により、温泉街の景観形成を図ります。
- 温泉街外周部と周辺の丘陵地及び低層住宅地などとの景観的な調和を図ります。

## ○山並みと調和のとれた住宅地景観の形成

- 周辺の山並みと調和のとれた低層住宅地の景観形成を図ります。

## ○入山辺のぶどう園などの地域資源を活かした里山景観の形成

- 入山辺のぶどう園などと周辺の集落地が一体となった特色ある里山景観の保全・形成を図ります。

## ○薄川での水辺環境と親水空間の形成

- 河川敷等の自然環境の保全を図るとともに、親水機能を備えた身近な水辺空間づくりを促進します。
- 快適な歩行者空間の形成、植栽による良好な景観形成などに配慮し、市民の安らぎの場となる河川緑地の整備を促進します。

## ○美ヶ原高原の自然の再生・保護・利用

- 美ヶ原高原の自然資本を最大限活用し、植生回復や景観保全に取り組みながら、高原観光地としての魅力創出を図ります。

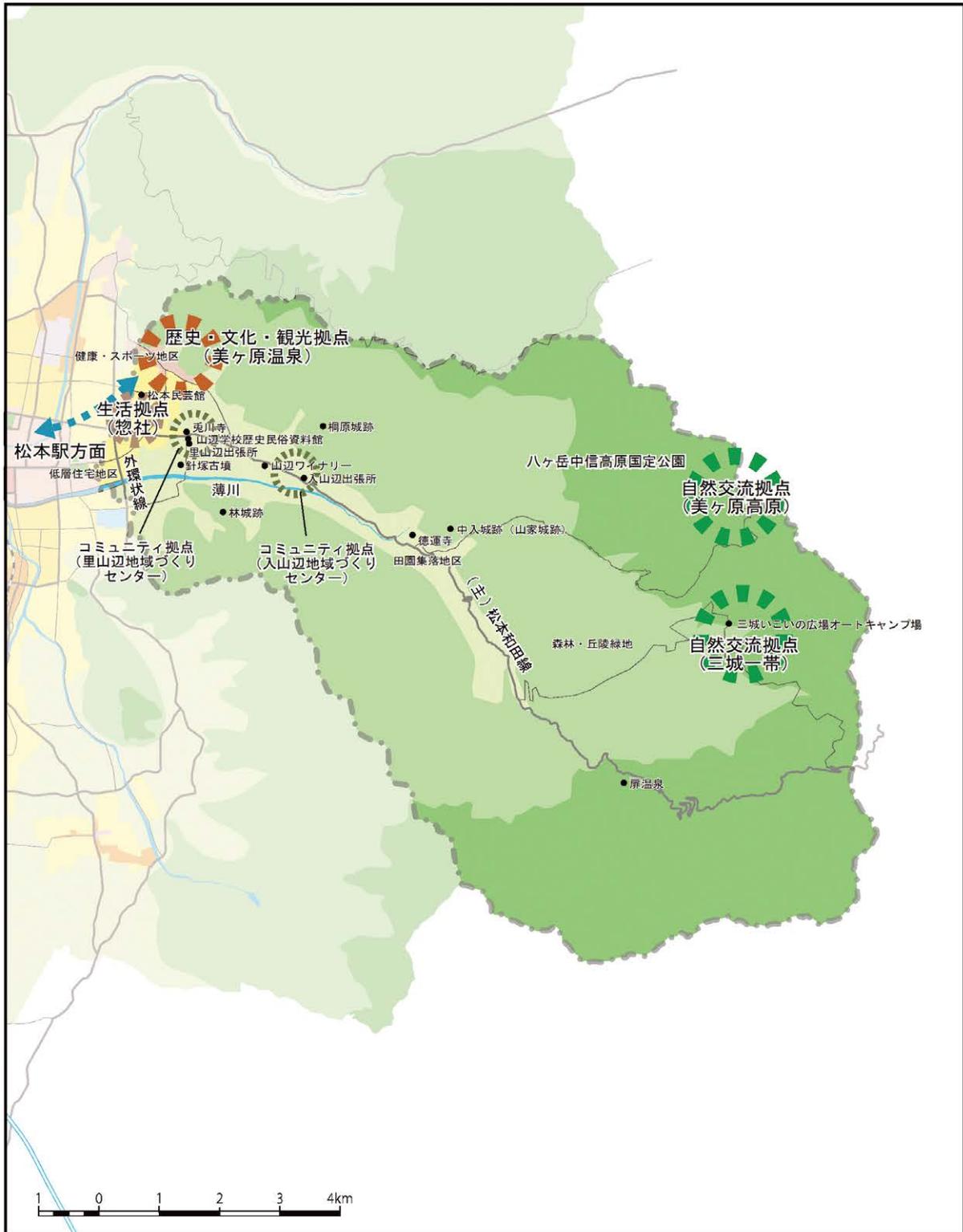


美ヶ原高原



美ヶ原温泉

●東山中部地域 整備方針図



凡例

土地利用区分

- |             |           |
|-------------|-----------|
| ● 中心商業業務地区  | ● 都市型住宅地区 |
| ● 都市型複合業務地区 | ● 低層住宅地区  |
| ● 複合業務地区    | ● 田園集落地区  |
| ● 地域商業地区    | ● 山間集落地区  |
| ● 学術・医療地区   | ● 森林・丘陵緑地 |
| ● 健康・スポーツ地区 | ● 公園緑地    |
| ● 工業地区      | ● 河川      |
| ● 流通業務地区    | ● 交通施設用地  |
| ● 複合産業地区    |           |

道路種別

- 高速道路
- 高規格道路
- 主要幹線道路
- 幹線道路

公共交通

- 鉄道 (JR)
- 鉄道 (その他)
- バス (主要幹線、幹線)

## 5 東山南部地域（中山地区・内田地区）

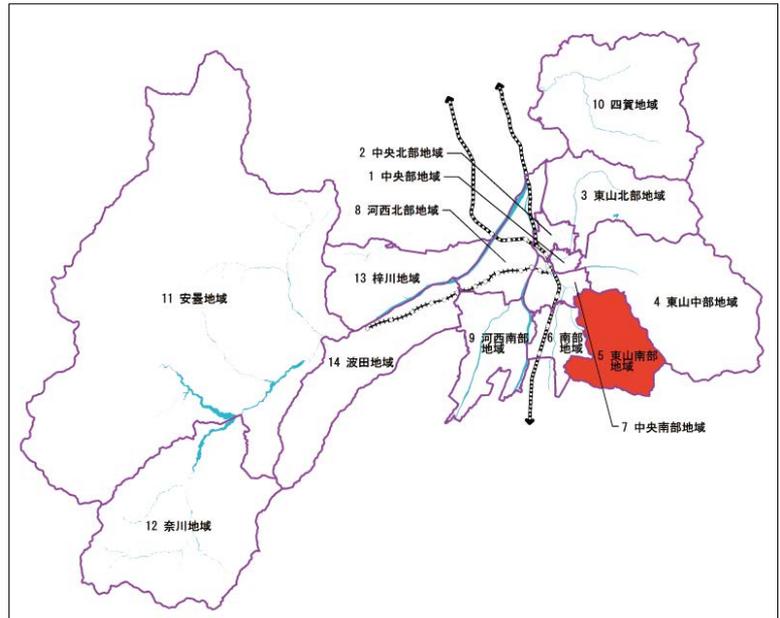
### （1）地域の概況

東山南部地域は、地域東側に広がる東山山系と、市街地に近接した中山丘陵、そしてその裾に広がる農地及び集落地によって構成されています。

中山丘陵は市街地からの視対象として重要な景観要素であると同時に、丘陵地の各所から、壮大な北アルプス連峰を背景に広がる松本市の市街地を眺望することができます。

弘法山古墳、中山古墳群、もくげんちようあと牧監庁跡などをはじめとして貴重な史跡などが数多く残されているほか、国の重要文化財に指定されている馬場家住宅、牛伏川階段工があります。

少子高齢化が進んでおり、生活利便性の充実、コミュニティの維持が課題となっています。また、山間部では土砂災害が想定されている区域があり、安全な避難を可能とするための対策が必要となっています。



中山丘陵からの眺め

## (2) 地域別構想

### ① 将来像

「北アルプスの壮大な眺望と里の緑や歴史資源を活かしたうるおいのある里山のまち」

- 中山・内田の緑や歴史的環境と調和する緑豊かな住宅地
- 北アルプスの眺望や中山・内田の緑・そば・遺跡文化にふれあえる里のまち

### ② まちづくりの方針

中山・内田の自然や歴史資源などを巡る回遊型の自然交流ゾーンを整備するとともに、この自然・歴史的環境と調和する住宅地を保全、形成します。

公共交通の改善に取り組みながら、既存の集落地における生活利便性の向上を図るとともに、農地の保全と営農環境の整備を図ります。

### ③ 拠点形成と土地利用

本地域の拠点及び土地利用区分を次のように定めます。

拠点形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コミュニティ拠点（中山地区、内田地区の地域づくりセンター周辺）</li> <li>●自然交流拠点（中山丘陵一帯）</li> </ul>		
土地利用	都市的開発整備ゾーン	商業業務系	—
		産業系	—
		住宅系	低層住宅地区（中山住宅団地、六道地区）
	農業環境保全ゾーン	田園集落地地区（丘陵地に広がる農業地）	
自然環境保全ゾーン	公園緑地（中山丘陵、八ヶ岳中信高原国定公園）、森林・丘陵緑地（中山から東南部に広がる丘陵地）		

### ④ 整備方針

#### 【施設整備】

#### ○集落地における生活道路の改善

- 集落地における生活道路の安全性、利便性の向上に向けた整備を進めます。

#### ○中山から内田にかけての丘陵地、そばの畑、史跡を活かした回遊を促す環境の形成

- 中山から内田にかけての丘陵地、そば畑、中山古墳群、弘法山古墳や重文馬場家住宅などの史跡を巡る回遊を促すため、住民参加によるまちづくりを支援し良好な環境を誘導します。

#### ○土砂災害の防止・被害の低減

- 土砂災害警戒区域・特別警戒区域における危険周知、避難体制整備等の対策を推進します。

#### 【公共交通】

#### ○地域の暮らしを支えるバス路線の利便性の維持、充実

- 地域と地域拠点の間の移動や生活関連施設への移動を支えるバス路線について、利用状況等を考慮して利便性の向上を検討します。

**【環境保全形成】**

## ○中山丘陵における自然景観・歴史的景観の保全

- 市街地からの良好な自然景観を構成する中山の丘陵緑地の保全を図ります。
- 周辺の自然環境との調和、市街地からの眺望景観に配慮した中山霊園や弘法山古墳などの施設整備を進めます。

## ○中山から内田にかけての丘陵地と調和する里山景観の形成

- 既存住宅地の歩道整備における景観への配慮を進めるとともに、緑化及びブロック塀の生垣化等を促進することにより、中山丘陵と一体となったみどりの街並みを形成します。

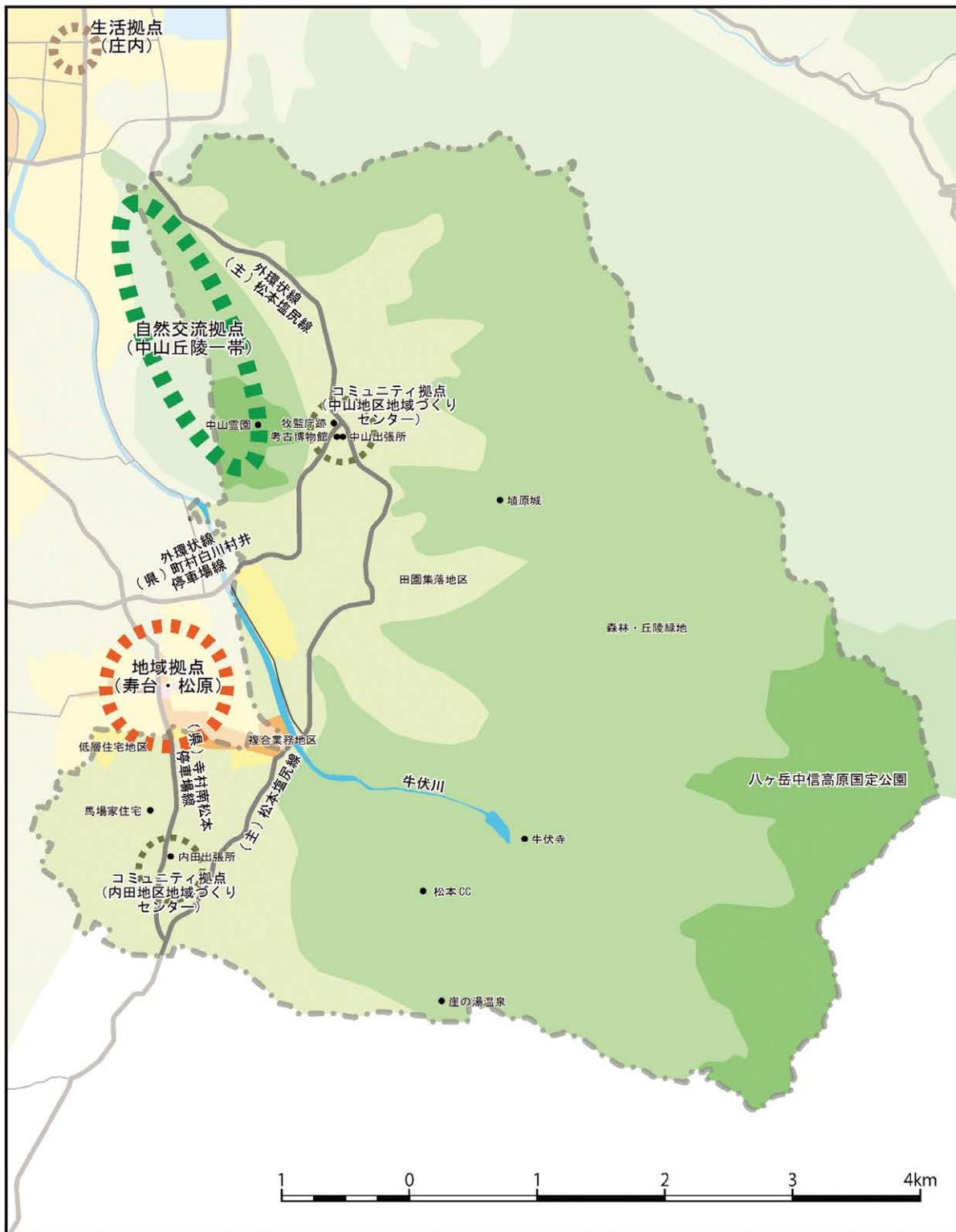
## ○和泉川、牛伏川の水辺環境の形成

- 生物の生息・育成に適した水辺環境の整備を進めます。
- 堤防沿いの緑化により、市民の安らぎの場となる河川緑地の整備を進めます。



牛伏川

●東山南部地域 整備方針図



凡例

土地利用区分

- |             |           |
|-------------|-----------|
| ■ 中心商業業務地区  | ■ 都市型住宅地区 |
| ■ 都市型複合業務地区 | ■ 低層住宅地区  |
| ■ 複合業務地区    | ■ 田園集落地区  |
| ■ 地域商業地区    | ■ 山間集落地区  |
| ■ 学術・医療地区   | ■ 森林・丘陵緑地 |
| ■ 健康・スポーツ地区 | ■ 公園緑地    |
| ■ 工業地区      | ■ 河川      |
| ■ 流通業務地区    | ■ 交通施設用地  |
| ■ 複合産業地区    |           |

道路種別

- 高速道路
- 高規格道路
- 主要幹線道路
- 幹線道路

公共交通

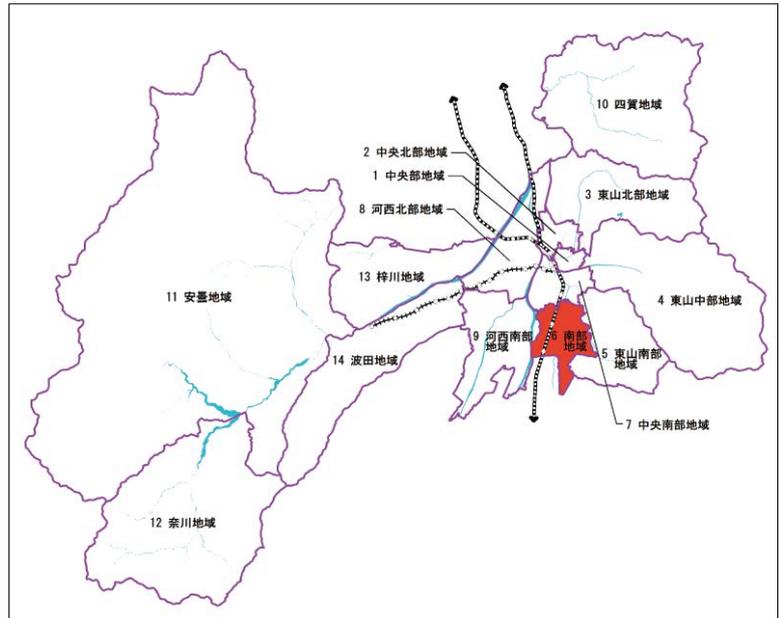
- 鉄道 (JR)
- 鉄道 (その他)

## 6 南部地域（芳川地区・寿地区・寿台地区・松原地区）

### （1）地域の概況

南部地域は、おおむね野溝地区以南の国道19号を中心とし、東西を牛伏川と奈良井川に挟まれた地域です。本地域は、多様な産業施設が集積している地域でもあり、国道19号沿道や平田駅周辺には商業施設、サービス施設が立地しており、その周りに住宅地が形成されてきました。また、近年ではJR村井駅及びその周辺の交通基盤の整備等が進められています。

住宅団地が立地する寿台地区では人口減少と高齢化が急速に進み、生活利便性やコミュニティの維持が課題となっています。また、国道19号とこれに接続する道路の交差点周辺では、交通渋滞が発生しており、この交通混雑の解消が課題となっています。



### （2）地域別構想

#### ① 将来像

「水と緑の豊かなうるおいのある住宅地と多様な産業が調和するまち」

- 駅周辺等の地域拠点を擁する利便性の高い市街地
- 田園景観と調和するうるおいのある住宅地
- 松本市南部地域の暮らしを支える商業や文化のあるまち

#### ② まちづくりの方針

国道19号は沿道型商業施設の土地利用を維持します。また駅周辺や寿台・松原では生活サービス施設の立地誘導を図り、近接した地区は公共交通の利便性の高い居住環境を目指します。その他周辺については、農地を保全し地域の田園環境と調和した住宅地環境を整備します。

### ③ 拠点形成と土地利用

本地域の拠点及び土地利用区分を次のように定めます。

拠点形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域拠点（平田駅、村井駅、寿台・松原の周辺）</li> <li>● コミュニティ拠点（芳川地区、寿地区、寿台地区、松原地区の地域づくりセンター周辺）</li> <li>● 産業・研究拠点（流通業務団地）</li> <li>● 医療拠点（まつもと医療センター松本病院）</li> <li>● 自然交流拠点（中山丘陵一帯）</li> </ul>		
	土地利用	都市的開発 整備ゾーン	商業業務系
産業系			流通業務地区（流通業務団地）
住宅系			低層住宅地区（複合業務地区周辺の住宅地）
農業環境保全ゾーン		田園集落地区（南部地域の既存農地）	
自然環境保全ゾーン	森林・丘陵緑地（中山丘陵）		



平田駅パークアンドライド



村井駅（改修後イメージ）

### ④ 整備方針

#### 【施設整備】

#### ○幹線道路網の形成

- 交通渋滞の解消に向けた幹線道路の整備を進めます。

#### ○交通の安全性の向上

- 幹線道路及び生活道路における歩行者と自転車の安全の確保を図ります。

#### ○駅周辺の交通結節機能の充実

- 鉄道を利用しやすい交通環境を整備するため、平田駅におけるパークアンドライド駐車場の充実を図るとともに、村井駅の駅施設、駅前広場、接続道路の整備を進めます。
- 信州まつもと空港の機能拡充を見据え、平田駅、村井駅からのアクセスの向上を検討します。

#### ○水辺環境と一体化した散策路の整備

- 田川では、生物の生息に適した水辺環境の整備と市民が河川に親しめる散策路の整備を促進します。

#### ○市街地における防災・避難空間の充実等

- 災害発生時の市街地における防災・避難空間の充実等に向けて、狭あい道路の拡幅を推進します。

### ○洪水による被害の低減

- 河川氾濫による甚大な浸水被害が想定される区域では、既存公共施設の安全の確保を進めるとともに、民間建築物の災害リスク低減に向けた対策を検討します。

### ○旧中信松本病院の跡地の適切な土地利用

- 旧中信松本病院の跡地について、周辺環境と調和した適切な土地利用が進むように関係機関へ働き掛けていきます。

## 【公共交通】

### ○鉄道の利便性の向上

- 交通事業者等との連携によるJR篠ノ井線の利便性向上を図ります。

### ○幹線バス路線の利便性の維持、充実

- 中心市街地と地域拠点や地域拠点間の移動を支えるバス路線の利便性の維持、充実に向けた路線・本数・時間の見直しを図ります。

### ○地域の暮らしを支えるバス路線の利便性の維持、充実

- 西部地域と地域拠点の間の移動や生活関連施設への移動を支えるバス路線について、利用状況等を考慮して利便性の向上を検討します。

## 【環境保全形成】

### ○活力ある駅前づくりと商業地景観の形成

- 駅周辺の地域商業地区では、歩行者が快適に居心地よく歩ける道路空間の整備、樹木の植栽等により、うるおいと賑わいのある駅前商業地景観の形成を図ります。

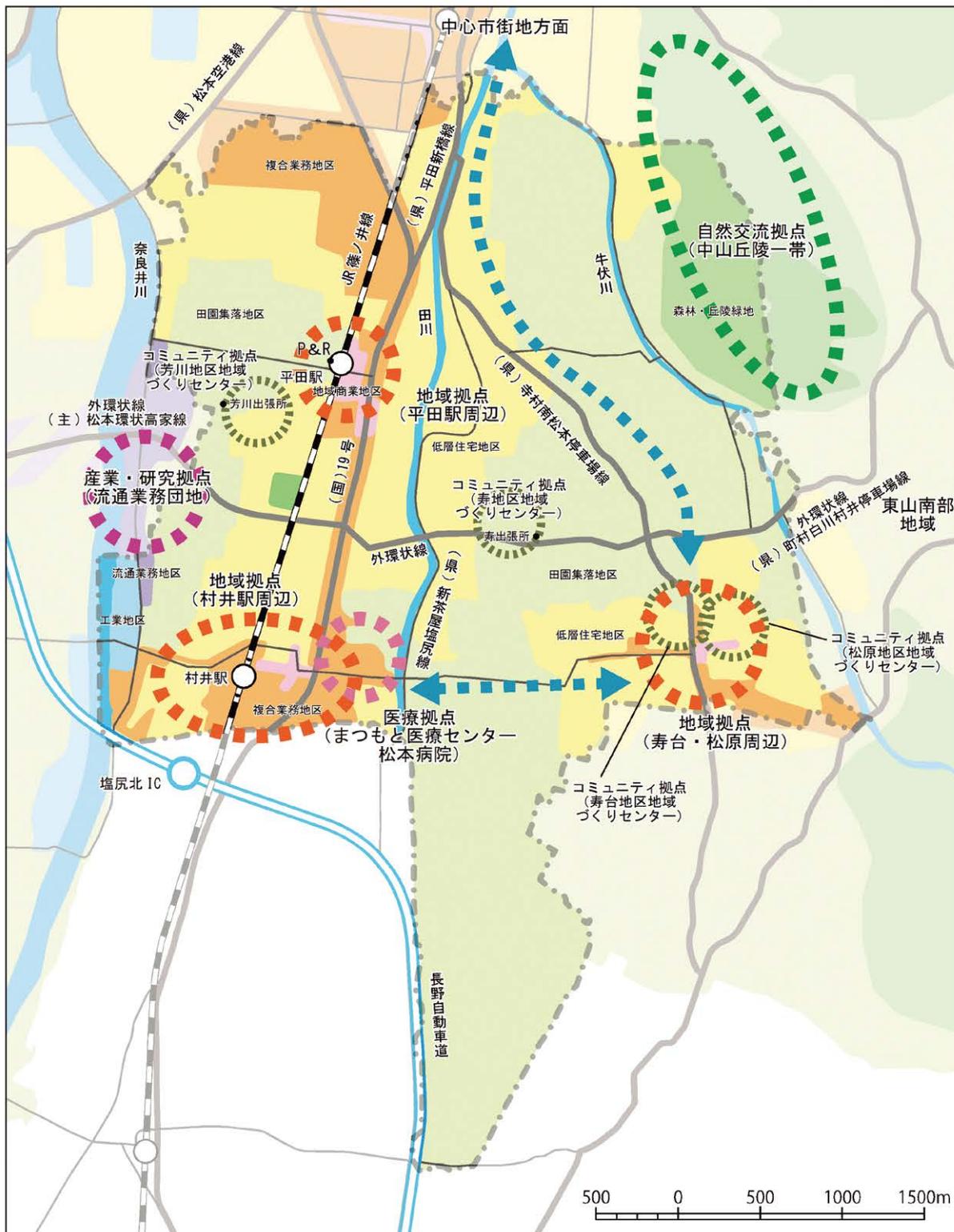
### ○周辺環境と調和した住宅地景観の形成

- 緑地景観の保全を図るとともに、松本平と北アルプスの眺望、東山を背景とした集落と農地が広がる景観と調和した農村集落の形成を図ります。

### ○ゆとりのある水辺環境を形成

- 奈良井川、田川等の河川敷等の自然環境の保全を図るとともに、親水機能を備えた身近な水辺空間づくりを促進します。
- 快適な歩行者空間の形成、植栽による良好な景観形成などに配慮し、市民の安らぎの場となる河川緑地の整備を促進します。

●南部地域 整備方針図



凡例

土地利用区分

- 中心商業業務地区
- 都市型複合業務地区
- 複合業務地区
- 地域商業地区
- 学術・医療地区
- 健康・スポーツ地区
- 工業地区
- 流通業務地区
- 複合産業地区
- 都市型住宅地区
- 低層住宅地区
- 田園集落地区
- 山間集落地区
- 森林・丘陵緑地
- 公園緑地
- 河川
- 交通施設用地

道路種別

- 高速道路
- 高規格道路
- 主要幹線道路
- 幹線道路

公共交通

- 鉄道 (JR)
- 鉄道 (その他)
- バス (主要幹線、幹線)

## 7 中央南部地域（田川地区・鎌田地区・松南地区・庄内地区）

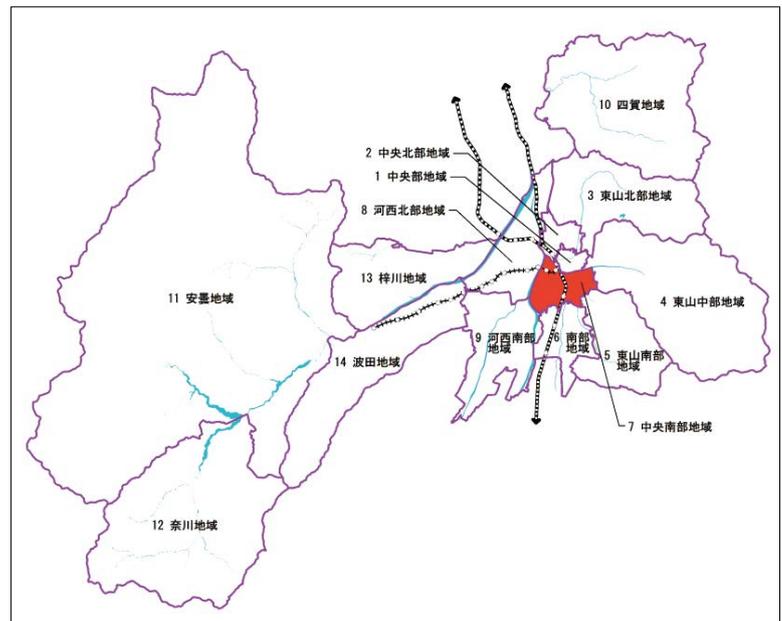
### （1）地域の概況

中央南部地域は、田川と奈良井川に挟まれた、おおむね南松本地区から松本駅西側までの地域です。南松本駅から石芝地区にかけては、工業施設の土地利用転換などにより、大規模商業施設や国道19号沿道に商業・サービス施設の立地が進んだことにより、その周辺では人口が増加しています。

地域内には木造の密集住宅地が存在し、地震時における火災の延焼や道路閉塞などが危惧されています。また、河川の洪水による浸水が想定されている区域では、安全な避難を可能とするための対策が必要となっています。

国道19号とこれに接続する道路の交差点周辺では、交通渋滞が発生しており、この交通混雑の解消が課題となっています。

南松本駅周辺では、バス等の公共交通の充実や南松本駅の駅前広場などの交通結節機能の強化が課題となっています。



### （2）地域別構想

#### ① 将来像

「水・緑と多様な産業が調和するうるおいと活力のあるまち」

- 松本市の活力を支える複合業務地区、地域商業地区
- 多様な産業拠点や都心地区に近接した利便性の高い都市型住宅地区

#### ② まちづくりの方針

松本市西側の複合業務地区や南松本駅西側の地域商業地区の機能の維持・充実を図るとともに、その周辺には利便性の高い都市型住宅地区を形成します。

### ③ 拠点形成と土地利用

本地域の拠点及び土地利用区分を次のように定めます。

拠点形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域拠点（南松本駅周辺）</li> <li>● 生活拠点（笹部、石芝、庄内）</li> <li>● コミュニティ拠点（田川地区、鎌田地区、松南地区、庄内地区の地域づくりセンター周辺）</li> <li>● 医療拠点（松本協立病院、丸の内病院）</li> </ul>		
土地利用	都市的開発整備ゾーン	商業業務系	複合業務地区（松本駅西側地区、国道19号沿道、南松本駅周辺）、地域商業地区（南松本駅前地区）
		産業系	工業地区（富士電機、IHI アグリテック）
		住宅系	都市型住宅地（中環状線の内側の住宅地）、低層住宅地区（中環状線の外側の住宅地）
	農業環境保全ゾーン		田園集落地区（市街地の東側に広がる農地）
	自然環境保全ゾーン		森林・丘陵緑地（中山の北部に広がる丘陵地）、公園緑地（中山丘陵）

### ④ 整備方針

#### 【施設整備】

#### ○幹線道路網の形成

- 交通渋滞の解消に向けた国道19号の拡幅整備を促進します。
- 中条白板線を始めとする都市計画道路の整備や宮田前踏切の立体化事業を推進します。

#### ○交通の安全性の向上

- 幹線道路及び生活道路における歩行者の安全の確保を図ります。

#### ○南松本駅の交通結節機能の強化

- 周辺道路の整備状況に応じて、駅前広場や自転車駐車場の整備を検討します。

#### ○市街地における防災・避難空間の充実等

- 災害発生時の市街地における防災・避難空間の充実等に向けて、都市計画道路の整備、狭あい道路の拡幅を推進します。

#### ○洪水による被害の低減

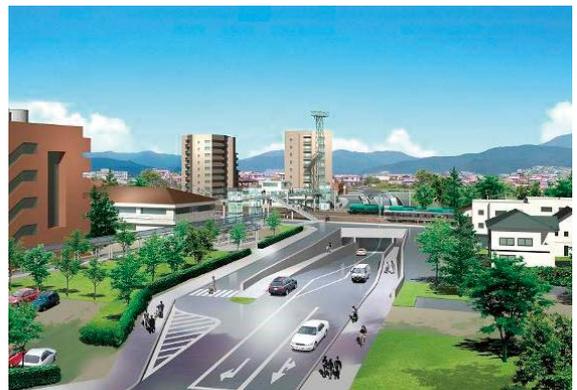
- 河川氾濫による甚大な浸水被害が想定される区域では、既存公共施設の安全の確保を進めるとともに、民間建築物の災害リスク低減に向けた対策を検討します。

#### ○土砂災害の防止・被害の低減

- 土砂災害警戒区域及び特別警戒区域の危険周知、ソフト対策を推進します。

#### ○河川の水辺環境と一体化した散策路の整備

- 奈良井川、田川では、治水安全度を確保した上で、生物の生息に適した水辺環境の整備と市民が河川に親しめる散策路の整備を促進します。



宮田前踏切の立体化事業（イメージ）

## 【公共交通】

### ○鉄道の利便性の向上

- 都市中心拠点へのアクセス性の維持・向上に向け、交通事業者等との連携によるJR篠ノ井線の利便性向上を図ります。

### ○幹線バス路線等の利便性の維持、充実

- 地域拠点・生活拠点と中心市街地の間や地域内移動を支えるバス路線の利便性の維持、充実に向けた路線・本数・時間の見直しを図ります。

### ○自転車を利用しやすい交通環境の形成

- 中心市街地と郊外部を繋ぐ<sup>つな</sup>自転車通行空間の整備を進めます。

## 【環境保全形成】

### ○活力ある駅前づくりと快適な産業空間の形成

- 松本駅アルプス口における魅力的な顔づくりを図ります。
- 山岳眺望を確保に配慮した建築物や屋外広告物の景観形成を図ります。
- 幹線道路の沿道では、街路樹の緑と調和した風格と賑わい<sup>にぎ</sup>のある街路景観の形成を図ります。

### ○周辺産業地区と調和する都市型住宅地景観の形成

- 優良なデザインの採用や緑化による良好な都市型市街地景観の形成を図ります。

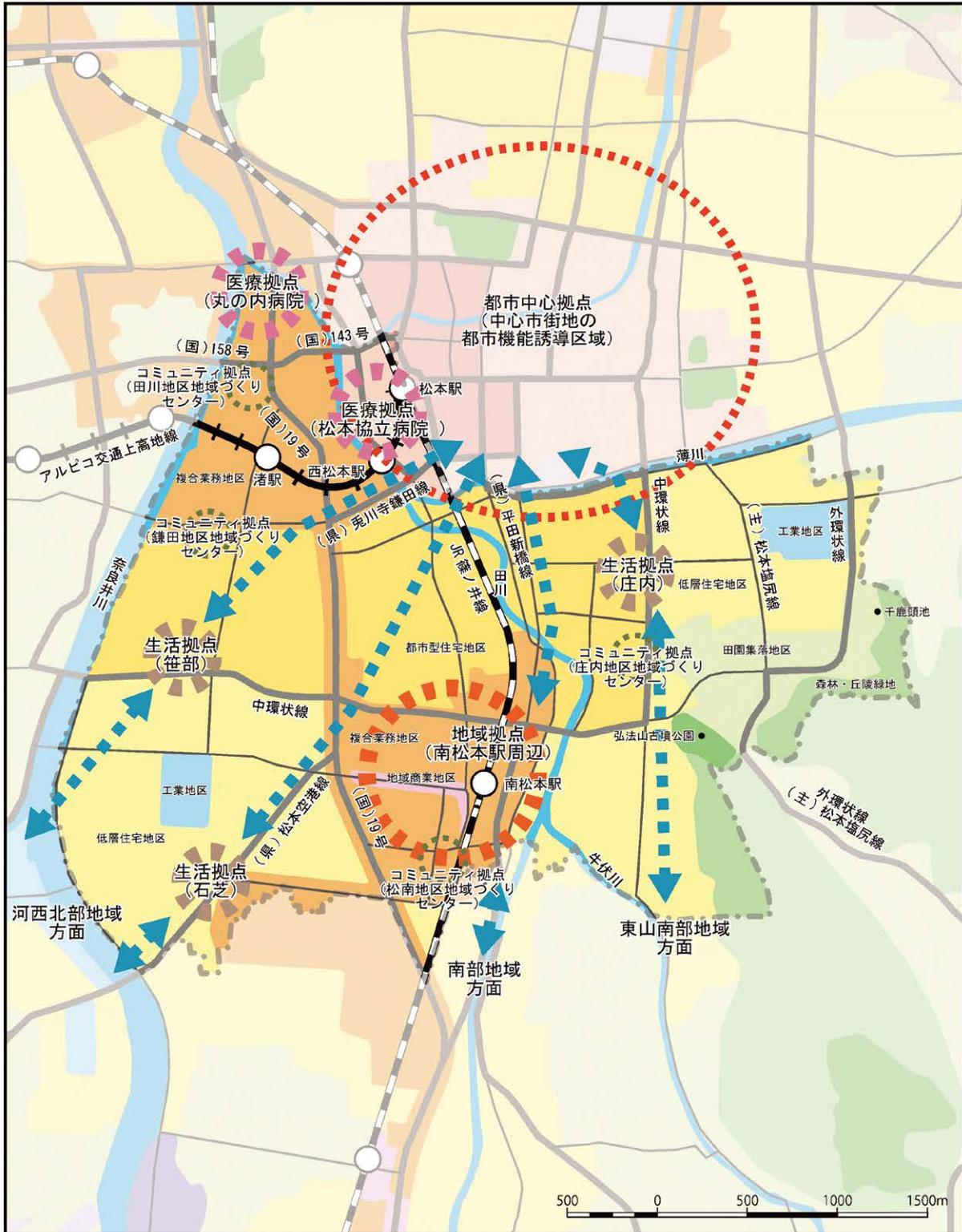
### ○ゆとりのある水辺環境を形成

- 奈良井川、田川等の河川敷等の自然環境の保全を図るとともに、親水機能を備えた身近な水辺空間づくりを促進します。
- 快適な歩行者空間の形成、植栽による良好な景観形成などに配慮し、市民の安らぎの場となる河川緑地の整備を促進します。



松本駅アルプス口駅前広場

●中央南部地域 整備方針図



凡例

土地利用区分

- 中心商業業務地区
- 都市型複合業務地区
- 複合業務地区
- 地域商業地区
- 学術・医療地区
- 健康・スポーツ地区
- 工業地区
- 流通業務地区
- 複合産業地区
- 都市型住宅地区
- 低層住宅地区
- 田園集落地区
- 山間集落地区
- 森林・丘陵緑地
- 公園緑地
- 河川
- 交通施設用地

道路種別

- 高速道路
- 高規格道路
- 主要幹線道路
- 幹線道路

公共交通

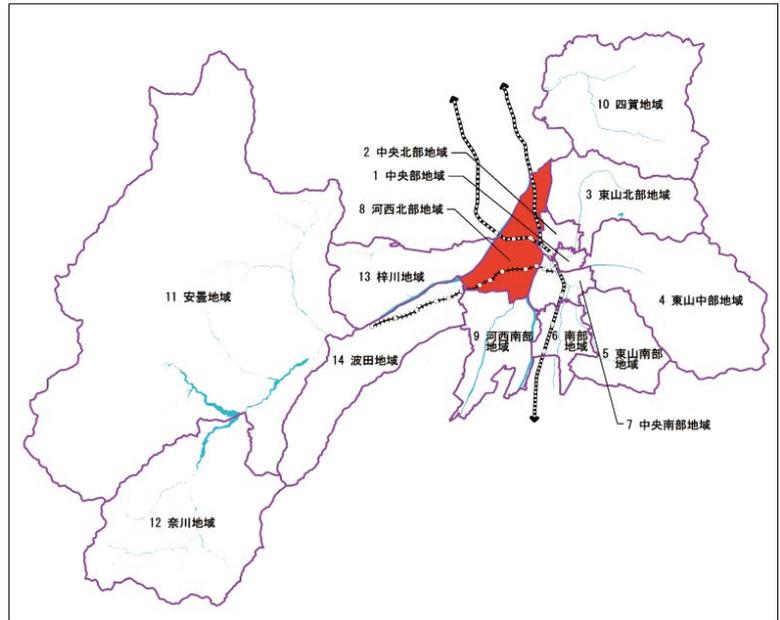
- 鉄道 (JR)
- 鉄道 (その他)
- バス (主要幹線、幹線)

## 8 河西北部地域（島内地区・島立地区・新村地区）

### （1）地域の概況

河西北部地域は、梓川と奈良井川にはさまれた地域であり、長野自動車道以東は住宅地、長野自動車道以西は豊富な水量を活かした大区画の水田からなる広大な田園地帯となっています。

松本インターチェンジと中心市街地を結ぶ国道158号沿道には、松本合同庁舎などの官公庁や業務施設等が立地しています。また、アルピコ交通上高地線の沿線には松本大学が立地しています。島内地区にはクリーンセンター、あずさセンター、エコトピア山田等、市の重要な廃棄物処理施設があります。



国道158号では、観光地や周辺自治体、中心市街地へ向かう交通量が多いため、交通混雑の解消が課題となっています。また、松本市西部地域における交通空白を解消するため、西部地域コミュニティバスが運行されていますが、生活を支える移動手段の利便性の維持、向上が引き続き課題となっています。市街地の浸水が想定されている区域では、安全に避難できる対策が課題となっています。

### （2）地域別構想

#### ① 将来像

「美しい川に生まれ、雄大なアルプスを望む緑豊かな田園のまち」

- 松本市の新たな発展を担う複合業務地
- 田園景観と調和する緑豊かな住宅地
- 良好な営農環境と調和した快適で活力ある田園地帯

#### ② まちづくりの方針

地域拠点である島内駅周辺においては、生活に必要な施設の立地の維持、誘導を図るとともに、都市型住宅を誘導します。

また、その北側から西側一帯の田園地帯では、アルピコ交通上高地線や国道158号等の幹線道路、松本大学等が立地する地域特性を踏まえて、公共交通のあるべき姿の検討と継続的な改善に取り組みながら、既存の集落地における生活利便性の向上を図るとともに、農地の保全と営農環境の整備を図ります。

③ 拠点形成と土地利用

本地域の拠点及び土地利用区分を次のように定めます。

拠点形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域拠点（島内駅周辺）</li> <li>● コミュニティ拠点（島内地区、島立地区、新村地区の地域づくりセンター周辺）</li> <li>● 産業・研究拠点（松本大学）</li> </ul>		
土地利用	都市的開発整備ゾーン	商業業務系	複合業務地区（松本IC東側の市街地、島内駅周辺）、地域商業地区（島内駅前）
		産業系	—
		住宅系	都市型住宅地区（奈良井川沿川の市街地）、低層住宅地区（旧国道147号沿道地区及び小宮団地等）
	農業環境保全ゾーン	田園集落地区（河西北部地域一帯に広がる農地、農村集落）	
	自然環境保全ゾーン	—	



島内駅周辺エリア（居住誘導区域）の住宅



松本大学

④ 整備方針

【施設整備】

○幹線道路網の形成

- 交通渋滞の解消に向けた幹線道路の優先整備を促進します。

○IC周辺の道路整備

- 中部縦貫自動車道（松本波田道路）のインターチェンジ整備に合わせて、周辺道路の見直しを図ります。

○交通の安全性の向上

- 幹線道路及び生活道路における歩行者と自転車の安全の確保を図ります。

○河川や田園地帯を巡る自転車空間の形成

- 河川や田園地帯を快適・安全に通行、走行できる自転車通行空間の形成を図ります。

○既存IC周辺における地域産業との連携

- 松本インターチェンジ周辺については、交通利便性や既存施設の立地状況を踏まえ、地域資源の活用方策について検討します。

○産業誘致のための土地利用の検討

- 新村インターチェンジ周辺については、道路整備に伴う産業用地需要の変化や既存の産業団地の状況、不整形で生産性が著しく低下した農地の活用を考慮しながら、農地の良好な営農環境と調和し

た適正な土地利用を検討します。

#### ○市街地における防災・避難空間の充実等

- 災害発生時の市街地における防災・避難空間の充実等に向けて、狭あい道路の拡幅を推進します。
- 河川氾濫による甚大な浸水被害が想定される区域では、既存公共施設の安全の確保を進めるとともに、民間建築物の災害リスク低減に向けた対策を検討します。

### 【公共交通】

#### ○鉄道の利便性の向上

- 地域拠点である島内駅や交通結節点である新村駅と都市中心拠点へのアクセス性の維持・向上に向け、交通事業者等との連携によるアルピコ交通上高地線、JR大糸線の利便性向上を図ります。

#### ○幹線バス路線の利便性の維持、充実

- 拠点間の移動を支える幹線バス路線の利便性の維持、充実に向けた路線・本数・時間の見直しを図ります。

#### ○幹線バスを利用しにくい地区の利便性の向上

- 鉄道や幹線バスへの接続により中心市街地への移動や生活関連施設への移動を担うバス路線について、利用状況等を考慮した利便性の向上を検討します。

#### ○新村駅周辺におけるパークアンドライドの充実

- 鉄道で中心市街地へ移動しやすい交通環境を整備するため、パークアンドライドの充実を図ります。

### 【環境保全形成】

#### ○松本平を象徴する田園集落景観の保全

- 集落地内における一団の屋敷林の保全、農業施策との連携を図ります。

#### ○河川における生物多様性の保全

- 奈良井川の河川敷等の自然環境の保全を図ります。
- 快適な歩行者空間の形成、植栽による良好な景観形成などに配慮し、市民の安らぎの場となる河川緑地の整備を促進します。

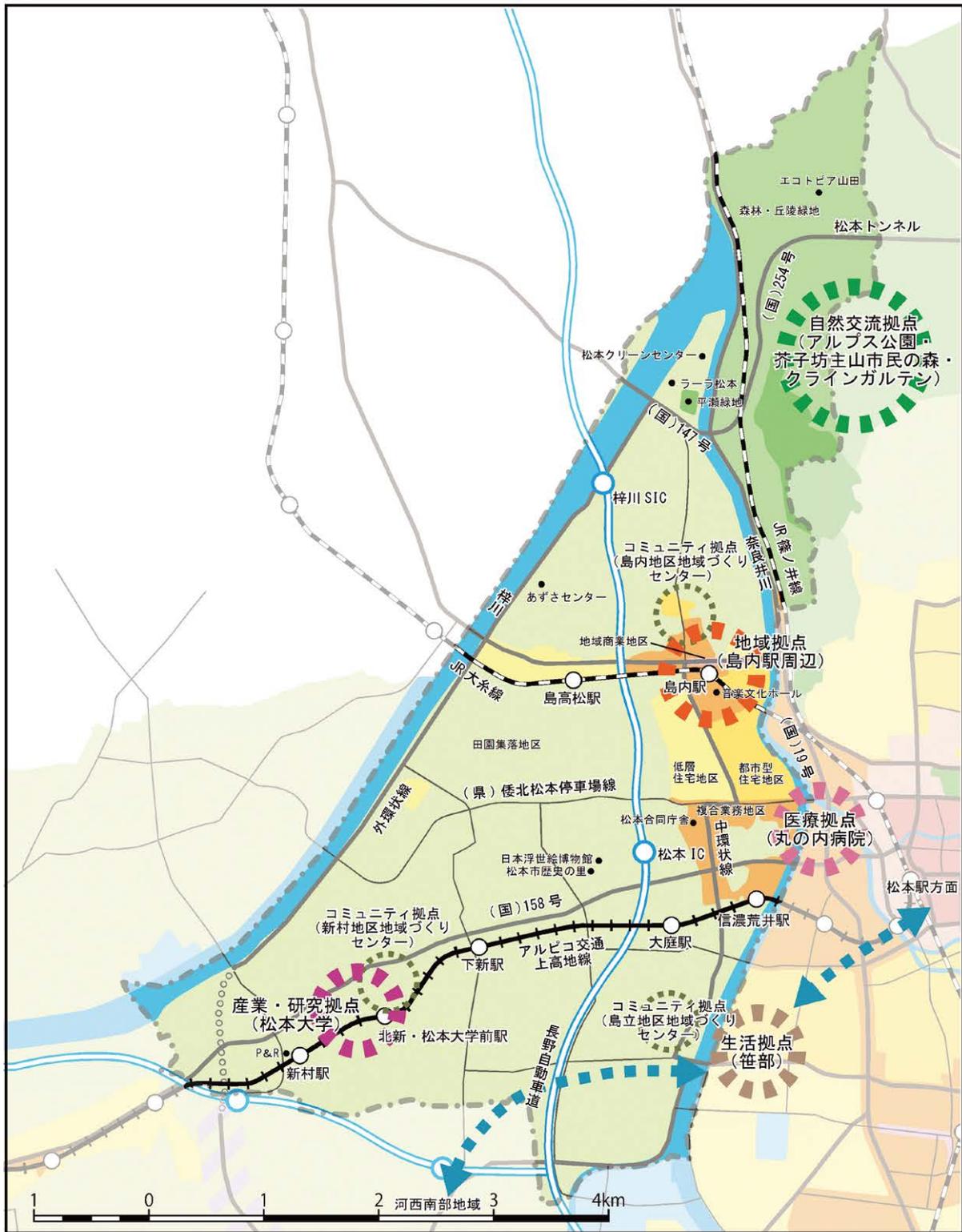
#### ○田園景観と調和する住宅地景観の形成

- 既存の住宅地における昔ながらの魅力ある農村景観の保全を図ります。
- 主要な道路では、歩道のデザイン化や緑化を進め、既存の歴史・文化施設や史跡と一体となった田園集落景観の形成を図ります。

#### ○陸の玄関口にふさわしい景観の形成

- 幹線道路の沿道では、街路樹の緑と調和した風格と賑わいのある街路景観の形成を図ります。
- 梓川を軸とした魅力的な広域の景観形成について、在り方の検討を進めます。

●河西北部地域 整備方針図



凡例

土地利用区分

- |             |           |
|-------------|-----------|
| ● 中心商業業務地区  | ● 都市型住宅地区 |
| ● 都市型複合業務地区 | ● 低層住宅地区  |
| ● 複合業務地区    | ● 田園集落地区  |
| ● 地域商業地区    | ● 山間集落地区  |
| ● 学術・医療地区   | ● 森林・丘陵緑地 |
| ● 健康・スポーツ地区 | ● 公園緑地    |
| ● 工業地区      | ● 河川      |
| ● 流通業務地区    | ● 交通施設用地  |
| ● 複合産業地区    |           |

道路種別

- 高速道路
- 高規格道路
- 主要幹線道路
- 幹線道路

公共交通

- 鉄道 (JR)
- 鉄道 (その他)
- バス (主要幹線、幹線)

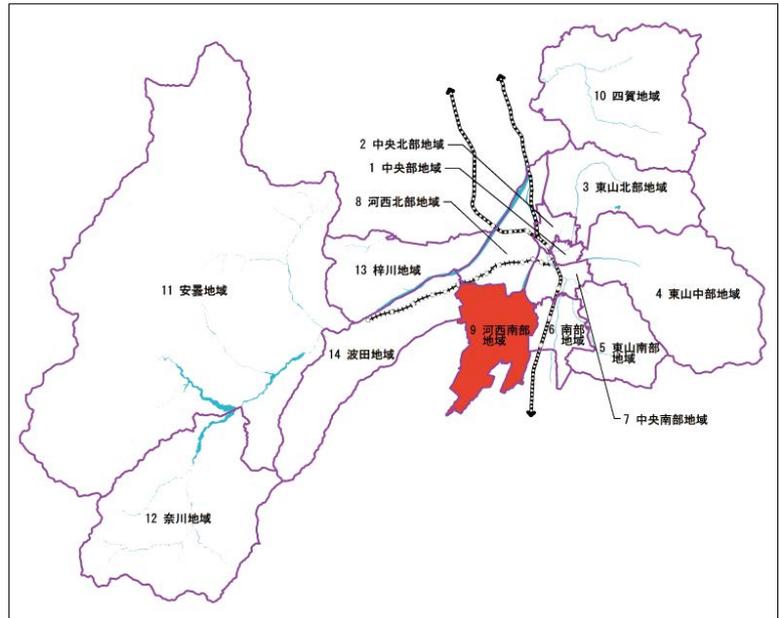
## 9 河西南部地域（和田地区・神林地区・笹賀地区・今井地区）

### （1）地域の概況

河西南部地域には複数の大規模な工業団地が立地し、松本市の主要な産業集積地域となっています。

地域には、県内唯一の空の玄関口である信州まつもと空港があります。空港に隣接する松本平広域公園には、総合球技場、やまびこドームを始めとした運動施設等があり、住民の憩いの場となっています。田園地帯には、水田、果樹園、野菜畑が広がり、松本平の原風景とも言える田園集落の景観が形成されています。

松本市西部地域における交通空白を解消するため、西部地域コミュニティバスが運行されていますが、生活を支える移動手段の利便性の維持、向上が引き続き課題となっています。



信州まつもと空港

### （2）地域別構想

#### ① 将来像

#### 「都市型産業と田園景観が調和する躍動的な田園のまち」

- 交通利便性を活かした都市型産業集積地
- ハイレベルなスポーツ・レクリエーション機能のある公園のまち
- 良好な営農環境と調和した快適で活力ある田園地帯

#### ② まちづくりの方針

長野県の空の玄関口である信州まつもと空港や松本平広域公園の機能充実を図るとともに、広域交通条件を活かした産業・研究拠点の機能を維持・充実し、地域経済の活性化を図ります。

また、田園地帯については散在する農村集落における生活環境の維持を図るとともに、農地の保全と営農環境の整備を図ります。

### ③ 拠点形成と土地利用

本地域の拠点及び土地利用区分を次のように定めます。

拠点形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生活拠点（神林・笹賀）</li> <li>●コミュニティ拠点（和田地区、神林地区、笹賀地区、今井地区の地域づくりセンター周辺）</li> <li>●産業・研究拠点（大久保工場公園団地、流通業務団地、西南工場団地、新松本工業団地、松本臨空工業団地、新松本臨空産業団地）</li> <li>●自然交流拠点（松本平広域公園）</li> </ul>		
	土地利用	都市的開発整備ゾーン	商業業務系
産業系			工業地区（大久保工場公園団地、西南工場団地、新松本工業団地、松本臨空工業団地、新松本臨空産業団地）、流通業務地区（流通業務団地）、複合産業地区（主要地方道松本環状高家線沿線地区）
住宅系			低層住宅地区（今井ニュータウン、既存の市街化区域）
農業環境保全ゾーン		田園集落地区（河西南部地域一帯に広がる農地、農村集落）	
自然環境保全ゾーン		公園緑地（松本平広域公園等）	

### ④ 整備方針

#### 【施設整備】

#### ○幹線道路網の形成

- 中部縦貫自動車道（松本波田道路）、都市計画道路等の整備を促進します。

#### ○交通の安全性の向上

- 中部縦貫自動車道（松本波田道路）のインターチェンジ周辺における交通安全の確保を図ります。
- 幹線道路及び生活道路における歩行者と自転車の安全の確保を図ります。

#### ○河川の水辺環境と一体化した散策路の形成

- 河川の水辺環境と一体化した散策路の整備（奈良井川、鎖川）を進めます。

#### ○河川や田園地帯を巡る自転車空間の形成

- 河川や田園地帯を快適・安全に通行、走行できる自転車通行空間の形成を図ります。

#### ○信州まつもと空港の路線拡充・機能強化

- 国内路線拡充・国際路線就航に対応した空港のエプロンの拡張、国際線ターミナルビルの開設、駐車場の増設を促進します。

#### ○工業地における基盤整備の充実

- 工業地における製造業の集積・操業環境向上に向けて、基盤施設の整備、維持、改善に取り組みます。

#### ○地域産業育成のための土地利用の検討

- 和田インターチェンジ周辺については、インターチェンジ供用に伴う地域産業の動向を踏まえ、良好な営農環境と調和した適正な土地利用を検討します。

#### ○防災・避難空間の充実等

- 災害発生時の市街地における防災・避難空間の充実等に向けて、都市計画道路の整備、狭あい道路の拡幅を推進します。
- 河川氾濫による甚大な浸水被害が想定される区域では、既存公共施設の安全の確保を進めるとともに、民間建築物の災害リスク低減に向けた対策を検討します。

## ○松本平広域公園の整備

- レクリエーションや自然との交流の場所としての整備・充実を図ります。

**【公共交通】**

## ○幹線バス路線の利便性の維持、充実

- 拠点間の移動を支えるバス路線の利便性の維持、充実に向けた路線・本数・時間の見直しを図ります。



松本平広域公園（陸上競技場整備イメージ）

## ○幹線バスを利用しにくい地区の利便性の向上

- 鉄道や幹線バスへの接続により中心市街地への移動や生活関連施設への移動を担うバス路線について、利用状況等を考慮した利便性の向上を検討します。

## ○信州まつもと空港へのアクセスの向上

- 信州まつもと空港の活性化に向けて、市街地や鉄道駅からのアクセスの向上を図ります。

**【環境保全形成】**

## ○田園景観と調和する産業空間の形成

- 田園景観と工場の調和を図るため、工場の建築物及び案内板・サインの景観形成を図るとともに、緩衝緑地の設置や敷地内の緑化による緑化を図ります。
- 松本環状高家線の道路緑化を進めるとともに、沿道の屋外広告物の規制、緑化を図ります。

## ○松本平を象徴する田園集落景観の保全

- 松本平に広がる水田や果樹園等の農地の保全を図ります。
- 集落地内における一団となった屋敷林や鎮守の森の保全、道路沿道を通る水路の保全・活用、道路沿いの生垣の整備等を図ります。

## ○ゆとりのある水辺環境を形成

- 鎖川、奈良井川等の河川敷等の自然環境の保全を図ります。
- 快適な歩行者空間の形成、植栽による良好な景観形成などに配慮し、市民の安らぎの場となる河川緑地の整備を促進します。

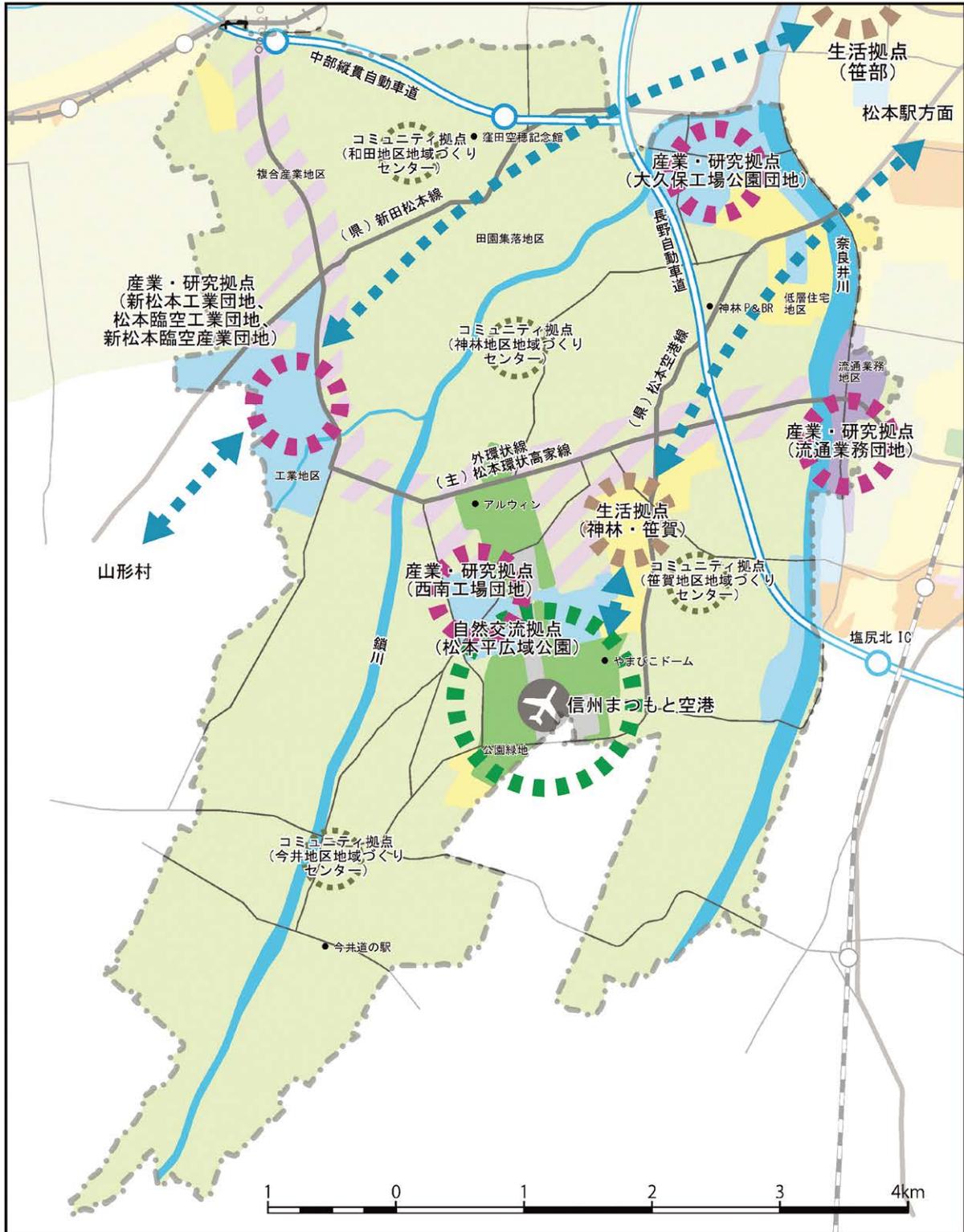
## ○田園景観と調和する住宅地景観の形成

- 市街地の周りに広がる田園景観と調和するように住宅の景観形成を図るとともに、ブロック塀の生垣化等を促進します。
- 住宅地の街並みの景観に配慮した歩道の舗装整備や緑化を進めます。

## ○空の玄関口にふさわしい景観の形成

- 空の玄関口として、花や緑で囲まれた松本をアピールするため、空港及び周辺の修景整備を進めるとともに、上空からの景観にも配慮を図ります。

●河西南部地域 整備方針図



凡例

土地利用区分

- 中心商業業務地区
- 都市型複合業務地区
- 複合業務地区
- 地域商業地区
- 学術・医療地区
- 健康・スポーツ地区
- 工業地区
- 流通業務地区
- 複合産業地区
- 都市型住宅地区
- 低層住宅地区
- 田園集落地区
- 山間集落地区
- 森林・丘陵緑地
- 公園緑地
- 河川
- 交通施設用地

道路種別

- 高速道路
- 高規格道路
- 主要幹線道路
- 幹線道路

公共交通

- 鉄道 (JR)
- 鉄道 (その他)
- バス (主要幹線、幹線)

## 10 四賀地域（四賀地区）

### （1）地域の概況

四賀地域は、戸谷峰（1,629メートル）を最高に、1,000メートル級の山並みに囲まれた盆地であり、豊かな自然、文化財、歴史の街並みがある地域です。会田川と保福寺川の2つの河川に沿って農地と集落が散在しています。

安心して食べることのできる、美味しい有機無農薬の米や野菜を供給する地域「ゆうきの里「エコビレッジ四賀」」を掲げて、特産品の開発や製品のブランド化を進めています。

人口減少と高齢化が顕著に進み、生活利便性やコミュニティの維持が課題となっています。そうした中で、滞在型市民農園「クラインガルテン」事業を始めとして都市住民との交流を活発にすることで、定住化促進に結び付けることが今後の課題となっています。また、土砂災害が想定されている区域があり、安全な避難を可能とするための対策が必要となっています。



四賀の集落と農地



宿場町（会田宿）

## (2) 地域別構想

### ① 将来像

<b>「都市との交流による 自然豊かなゆうきの里」</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■豊かな自然環境と調和したまちづくり</li> <li>■里山の景観とふれあえる田舎暮らしができるまち</li> </ul>

### ② まちづくりの方針

自然環境を保全し、田園居住を強化するとともに都市との交流を高め、クラインガルテンや空き家の活用等により地域の活性化を図ります。

中山間地の需要に応じた、持続的な生活サービス機能の構築を図ります。

### ③ 拠点形成と土地利用

本地域の拠点及び土地利用区分を次のように定めます。

<b>拠点形成</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コミュニティ拠点（四賀支所・四賀地区地域づくりセンター）</li> <li>●自然交流拠点（クラインガルテン）</li> </ul>		
<b>土地利用</b>	都市的開発 整備ゾーン	商業業務系	—
		産業系	—
		住宅系	—
	農業環境保全ゾーン	田園集落地区（四賀支所、クラインガルテンを含む集落地区）、 山間集落地区（既存集落及び農地）	
自然環境保全ゾーン	森林・丘陵地区（四賀地域一帯に広がる森林地域）		

### ④ 整備方針

#### 【施設整備】

#### ○幹線道路網の形成

- 四賀地域と中心市街地、周辺都市を結ぶ移動の利便性強化に向けて国道143号の整備を促進します。

#### ○クラインガルテン事業の充実

- 都市住民との交流につながる滞在型市民農園「クラインガルテン」事業の維持・活用を図ります。

#### ○農地付き空き家等の利活用

- 移住・定住等を促進するため、農地付き空き家等の利活用を検討します。

#### ○持続可能な水道事業の推進

- 適切な維持管理を継続し、安全・安心な水道水の安定供給を図ります。

#### ○下水道事業の推進

- 河川等の水質浄化や自然環境の保全のため、既存の公共下水道施設の維持管理に取り組みます。

#### ○土砂災害の防止・被害の低減

- 土砂災害警戒区域・特別警戒区域における危険周知、避難体制整備、開発制限等の対策を推進します。

**【公共交通】**

## ○幹線バス路線の利便性の維持、充実

- 地域と中心市街地間の移動を支えるバス路線の利便性の維持、充実に向けた、路線・本数・時間の見直しを図ります。

## ○移動需要が少ない地区における交通サービスの構築

- 地域内移動について、地域の実態や需要に応じた最適な交通サービスの構築を検討します。

**【環境保全形成】**

## ○自然環境の保全

- 農地や山林などの豊かな自然環境の保全を図ります。
- 里山景観の保全・形成を図ります。

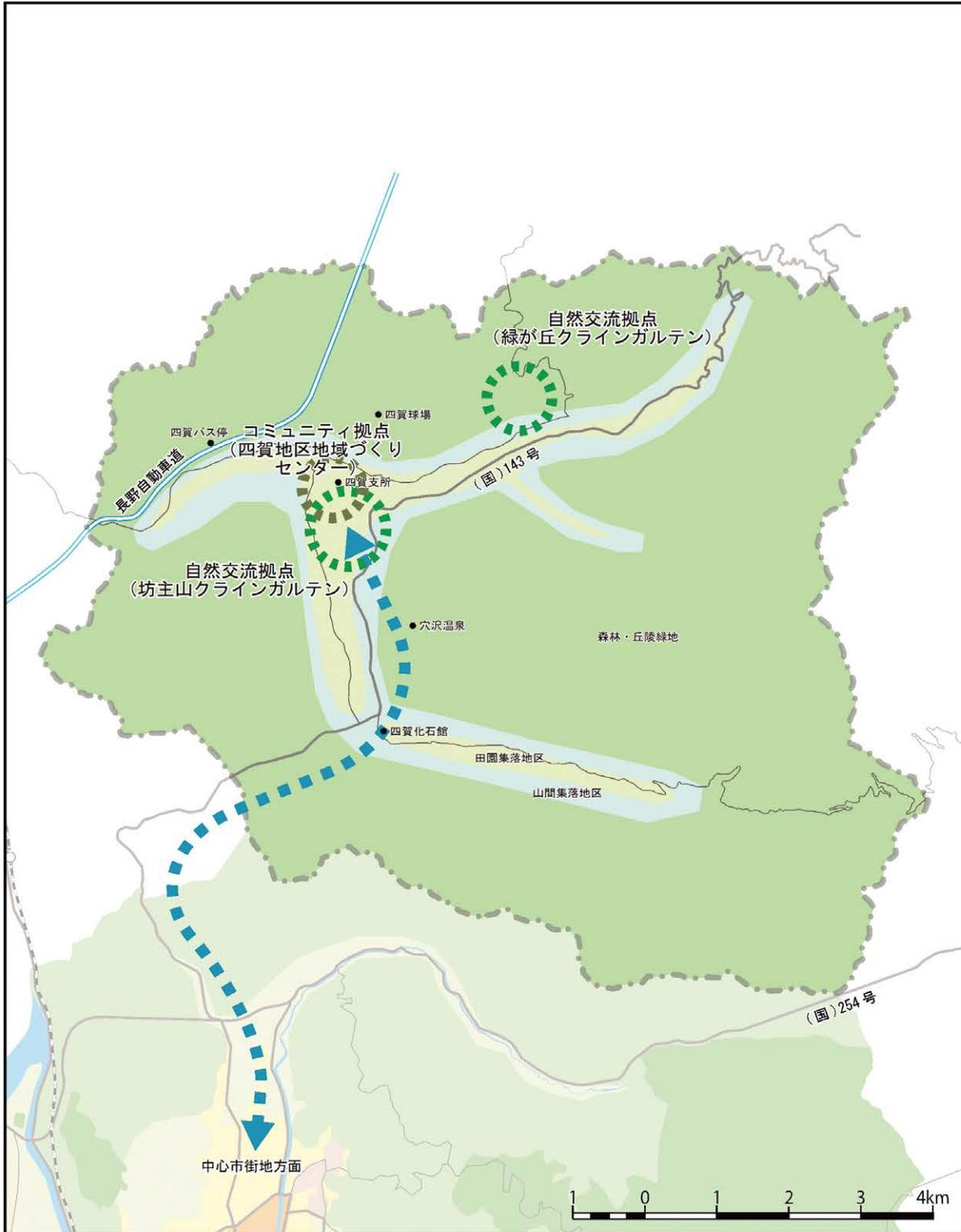
## ○歴史的資源の保全と活用

- 宿場町や社寺の残る歴史的資源の保全とともに、観光施設として活用するための景観形成を図ります。

## ○豊かな自然環境と調和した住宅地景観の形成

- クラインガルテンや集落地の自然と調和した景観形成を図ります。

●四賀地域 整備方針図



凡例

土地利用区分

- |             |           |
|-------------|-----------|
| ● 中心商業業務地区  | ● 都市型住宅地区 |
| ● 都市型複合業務地区 | ● 低層住宅地区  |
| ● 複合業務地区    | ● 田園集落地区  |
| ● 地域商業地区    | ● 山間集落地区  |
| ● 学術・医療地区   | ● 森林・丘陵緑地 |
| ● 健康・スポーツ地区 | ● 公園緑地    |
| ● 工業地区      | ● 河川      |
| ● 流通業務地区    | ● 交通施設用地  |
| ● 複合産業地区    |           |

道路種別

- 高速道路
- 高規格道路
- 主要幹線道路
- 幹線道路

公共交通

- 鉄道 (JR)
- 鉄道 (その他)
- バス (主要幹線、幹線)

## 11 安曇地域（安曇地区）

### （1）地域の概況

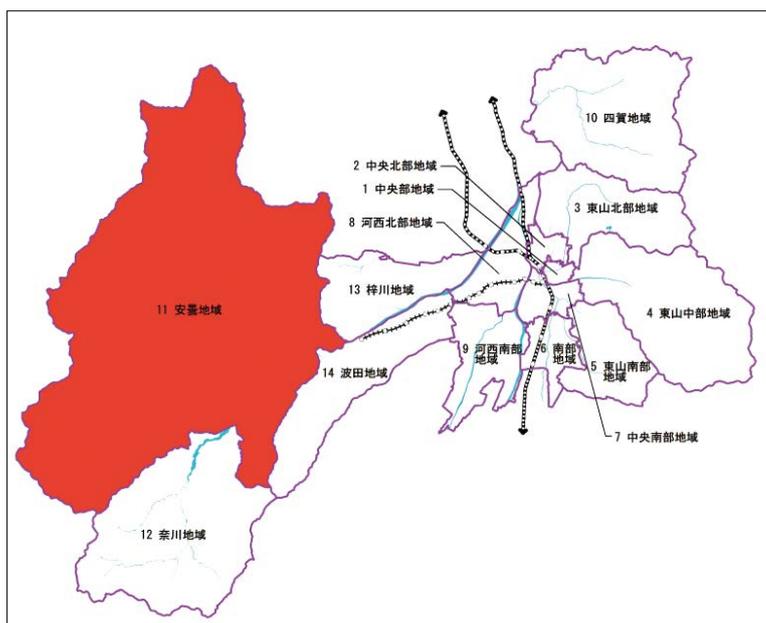
安曇地域は、403.18平方キロメートルという広大な面積を持ち、その57%が中部山岳国立公園に指定されており、上高地・白骨温泉・乗鞍高原など、全国的にも有数の観光地が存在しています。

就業者の多くがホテル・旅館・民宿等の宿泊業や観光業に携わっていますが、観光客の減少が就労の場に影響していることから、観光地の活性化が課題となっています。

人口減少と高齢化が顕著に進み、生活利便性やコミュニティの維持が課題

となっています。特に、買物弱者対策については、買物送迎サービスや利用しやすい公共交通を検討していく必要があります。

山間部であることから、土砂災害が想定されている区域があり、安全な避難を可能とするための対策が必要となっています。



### （2）地域別構想

#### ① 将来像

「北アルプスに抱かれた 四季折々の表情を魅せる 自然豊かなまち」

- 世界水準の観光資源を活かした滞在型の山岳リゾート
- 生活基盤の整った住みやすい観光のまち

#### ② まちづくりの方針

上高地などの世界に誇れる美しい山岳地帯を活かし、基盤を整備し、快適に回遊できるまちを形成することにより、旅行者のリピート化や滞在型の観光地づくりを目指します。また、今ある公共サービスを持続し、生活基盤を整えることで定住化を促進し、まちの活性化を図ります。

### ③ 拠点形成と土地利用

本地域の拠点及び土地利用区分を次のように定めます。

拠点形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コミュニティ拠点（安曇支所・安曇地区地域づくりセンター周辺）</li> <li>● 歴史・文化・観光拠点（上高地、乗鞍高原、白骨温泉、沢渡駐車場）</li> </ul>		
土地利用	都市的開発整備ゾーン	商業業務系	—
		産業系	—
		住宅系	—
	農業環境保全ゾーン	山間集落地区（既存集落地区）	
自然環境保全ゾーン	森林・丘陵緑地（中部山岳国立公園以外の森林地域）、公園緑地（中部山岳国立公園）		

### ④ 整備方針

#### 【施設整備】

#### ○幹線道路網の形成

- 安曇地域と中心市街地、周辺都市を結ぶ移動の利便性を高めるため、中部縦貫自動車道、国道158号の整備を促進します。

#### ○連携した観光地域づくりのためのインフラの形成

- 山岳エリア間を繋<sup>つな</sup>ぎ、連携した観光地域づくりのためのインフラ整備を進めます。

#### ○北アルプスの玄関口としての利用環境の充実

- 上高地では、北アルプスの玄関口として、世界中から多くの観光客や登山客を迎える利用環境の充実を図ります。

#### ○自然と文化が融合した山岳観光地の形成

- 乗鞍高原では、国から指定されたゼロカーボンパークとして、脱プラスチック、循環型社会の実現を目指し、自然と文化が融合した持続可能な山岳観光地の整備を進めます。



国道158号線（奈川渡改良）



沢渡駐車場（バスターミナル）

### ○持続可能な水道事業の推進

- 適切な維持管理を継続し、安全・安心な水道水の安定供給を図ります。

### ○生活排水処理施設の整備

- 既存の公共下水道施設、農業集落排水施設の維持管理に取り組みます。

### ○土砂災害の防止・被害の低減

- 土砂災害警戒区域・特別警戒区域における危険周知、避難体制整備、開発制限等の対策を推進します。

## 【公共交通】

### ○鉄道に接続するバス路線の利便性の維持、充実

- アルピコ交通上高地線への接続により中心市街地への移動や生活関連施設への移動を担うバス路線について、利用状況等を考慮した利便性の向上を検討します。

### ○移動需要が少ない地区における交通サービスの構築

- 地域内移動について、地域の実態や需要に応じた最適な交通サービスの構築を検討します。

## 【環境保全形成】

### ○豊かな自然環境の保全

- 上高地や乗鞍高原とその周辺の間々から構成される優れた山岳自然景観の保全を図ります。
- 観光施設等の整備における周辺の自然環境及び景観の保全に配慮します。

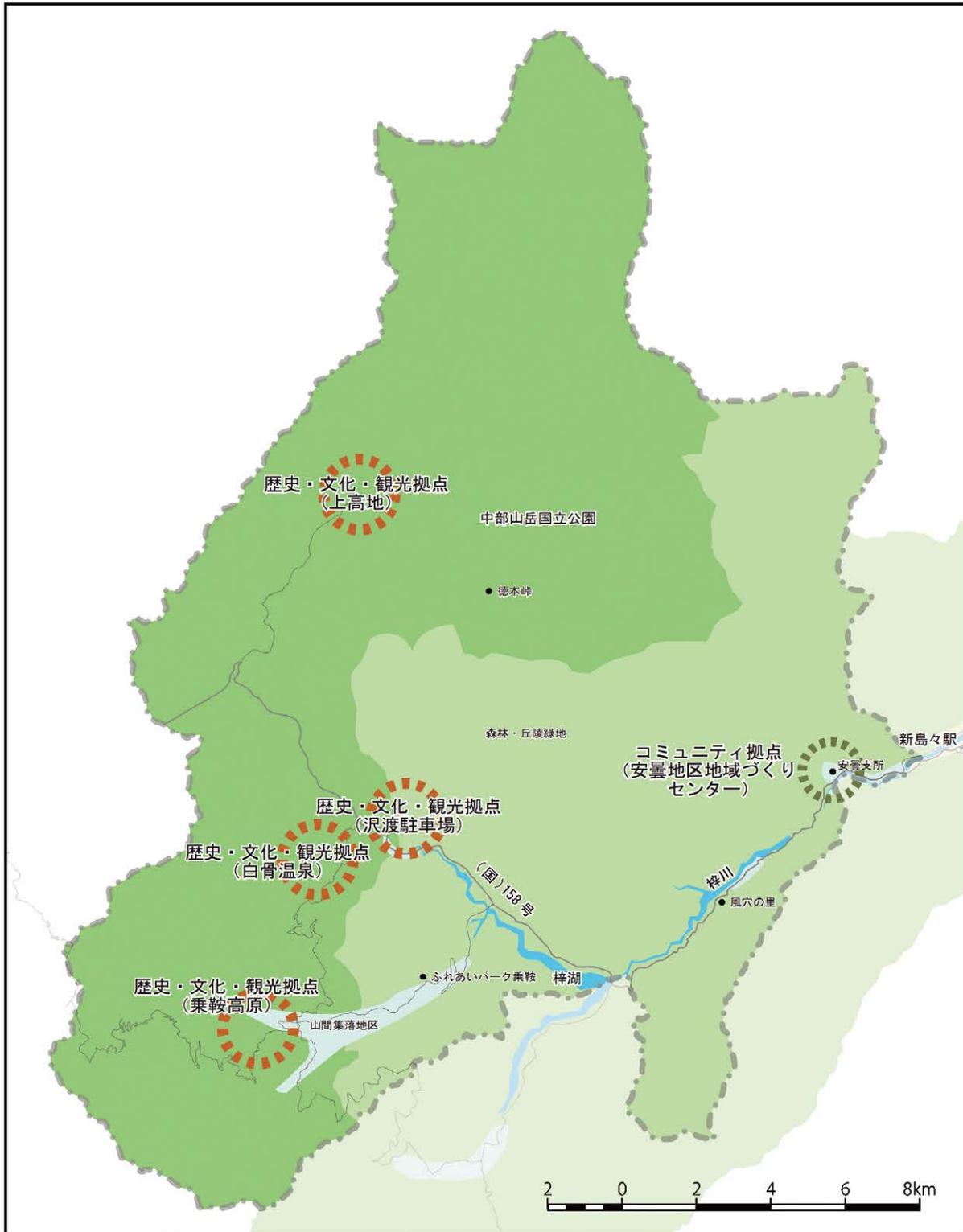
### ○歴史的資源の保全と活用

- 白骨温泉などの温泉宿の景観を保全し、観光施設としての活用を図ります。

### ○豊かな自然環境と調和した住宅地景観の形成

- 自然と調和する緑豊かな落ち着いた集落地の景観形成を図ります。

●安曇地域 整備方針図



凡例

土地利用区分

- |           |         |
|-----------|---------|
| 中心商業業務地区  | 都市型住宅地区 |
| 都市型複合業務地区 | 低層住宅地区  |
| 複合業務地区    | 田園集落地区  |
| 地域商業地区    | 山間集落地区  |
| 学術・医療地区   | 森林・丘陵緑地 |
| 健康・スポーツ地区 | 公園緑地    |
| 工業地区      | 河川      |
| 流通業務地区    | 交通施設用地  |
| 複合産業地区    |         |

道路種別

- 高速道路
- 高規格道路
- 主要幹線道路
- 幹線道路

公共交通

- 鉄道 (JR)
- 鉄道 (その他)

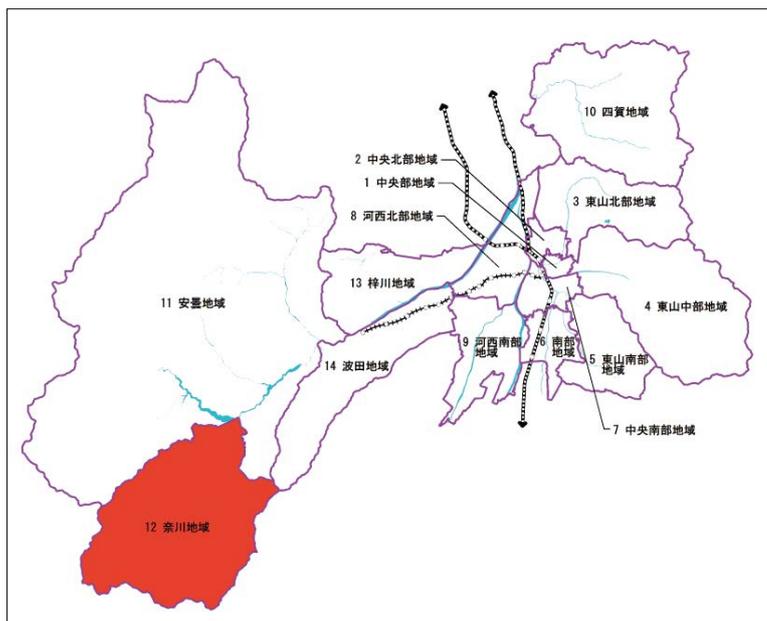
## 12 奈川地域（奈川地区）

### （1）地域の概況

奈川地域は、周囲を2,000メートル以上の連峰に囲まれた平地の少ない渓谷地帯にあります。西に乗鞍岳、東に鉢盛山を望み、野麦峠方面から南北に流れる奈川の河畔に沿って、標高1,000メートル前後の地域に集落が点在しています。

奈川地域の豊かな自然を多くの人々が享受し、交流が進む中で、雇用の拡大、定住化に向けた地域づくりを進めていますが、高齢化や景気の後退に伴う雇用環境の変化とともに近年人口が激減し、生活利便性やコミュニティの維持が課題となっています。特に、市街地への通勤を容易にする交通網整備、自然環境を活かした農林業の振興が課題となっています。

山間部であることから、土砂災害が想定されている区域があり、安全な避難を可能とするための対策が必要となっています。



### （2）地域別構想

#### ① 将来像

「自然に囲まれた やすらぎのある山あいの郷」

- 自然環境の保全による癒し空間の創出
- 自然のやすらぎによる定住化促進のまち

#### ② まちづくりの方針

奈川地域は豊かな自然環境に恵まれています。その自然環境を保全することで、「癒しの場所・安らぎ空間」を創出し定住化促進を図ります。また、幹線道路網等の基盤整備の促進により安曇地域を始めとする観光資源と地域内資源との連携を目指すとともに、中山間地の需要に応じた、持続的な生活サービス機能の構築を図ります。

### ③ 拠点形成と土地利用

本地域の拠点及び土地利用区分を次のように定めます。

拠点形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コミュニティ拠点（奈川支所・奈川地区地域づくりセンター周辺）</li> <li>● 歴史・文化・観光拠点（奈川高原）</li> <li>● 自然交流拠点（クラインガルテン）</li> </ul>		
土地利用	都市的開発整備ゾーン	商業業務系	—
		産業系	—
		住宅系	—
	農業環境保全ゾーン		山間集落地区（奈川支所、奈川地域づくりセンター、既存集落周辺）
自然環境保全ゾーン		森林・丘陵緑地（既存集落地以外の森林地域）	



奈川支所周辺の山間集落



大原クラインガルテン

### ④ 整備方針

#### 【施設整備】

#### ○幹線道路網の形成

- 奈川地域と安曇地域、中心市街地、周辺都市を結ぶ移動の利便性を高めるため、中部縦貫自動車道の整備を促進するとともに、国道158号、（主）奈川木祖線、（主）奈川野麦高根線の改良を促進します。

#### ○持続可能な水道事業の推進

- 適切な維持管理を継続し、安全・安心な水道水の安定供給を図ります。

#### ○奈川診療所の整備

- 奈川地区における診療体制を維持するため、コミュニティ拠点において、老朽化した診療所の建替えを推進します。

#### ○土砂災害の防止・被害の低減

- 土砂災害警戒区域・特別警戒区域における危険周知、避難体制整備、開発制限等の対策を推進します。

**【公共交通】**

## ○鉄道に接続するバス路線の利便性の維持、充実

- アルピコ交通上高地線への接続により中心市街地への移動や生活関連施設への移動を担うバス路線について、利用状況等を考慮した利便性の向上を検討します。

## ○移動需要が著しく地区における交通サービスの構築

- 地域内移動について、地域の実態や需要に応じた最適な交通サービスの構築を検討します。

**【環境保全形成】**

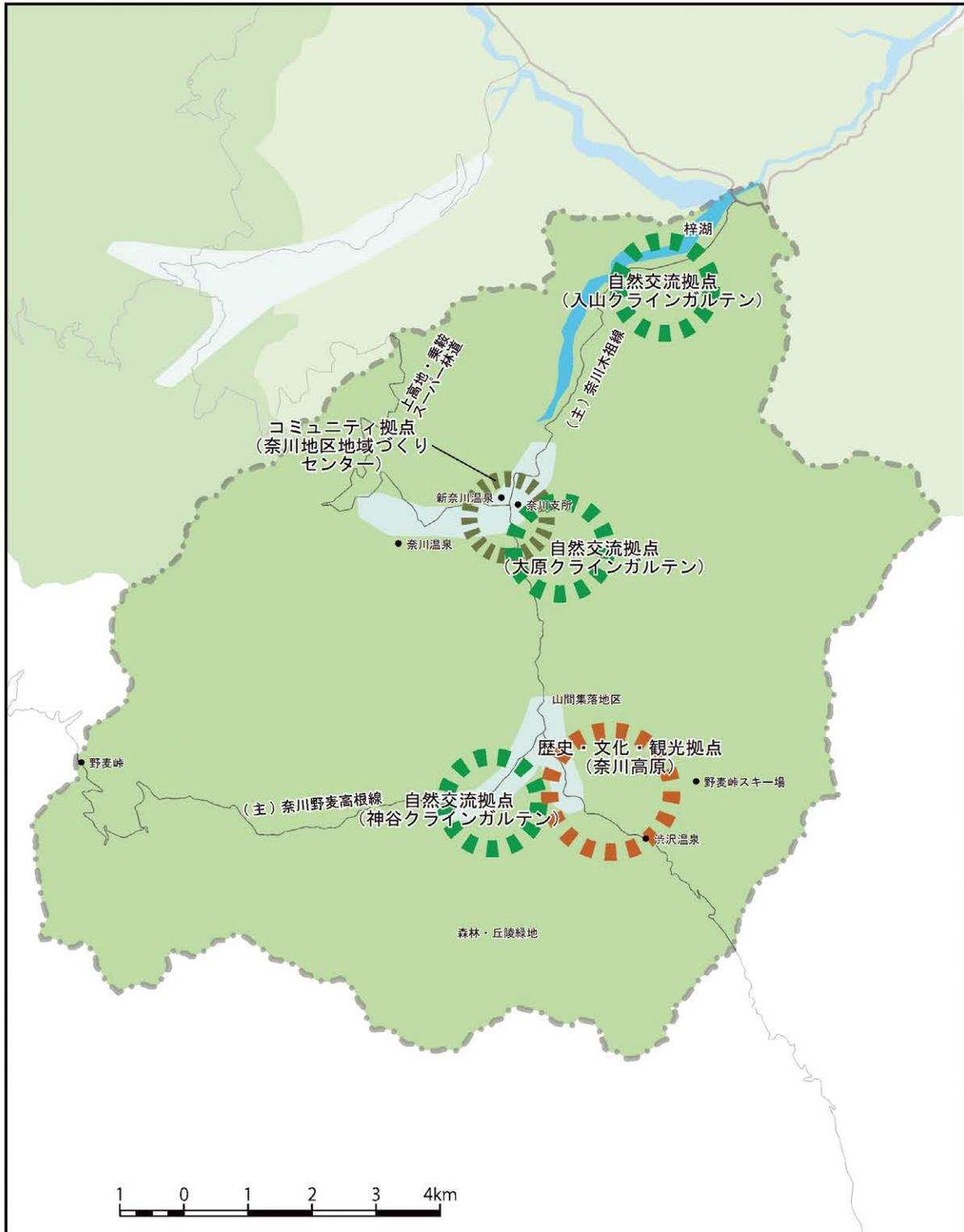
## ○豊かな自然環境の保全

- 奈川高原、野麦峠とその周辺の山々から構成される優れた自然景観の保全や、旧野麦街道に関する歴史的資源の保存活用を図ります。
- 新しい観光施設等の建造に当たっては、自然環境の保全に配慮します。

## ○山あいの郷としての集落地景観の形成

- 集落地や観光地においては、地域特有の自然と調和した集落、道路・河川などの景観の保全を図ります。

● 奈川地域 整備方針図



凡例

土地利用区分

- |             |           |
|-------------|-----------|
| ● 中心商業業務地区  | ● 都市型住宅地区 |
| ● 都市型複合業務地区 | ● 低層住宅地区  |
| ● 複合業務地区    | ● 田園集落地区  |
| ● 地域商業地区    | ● 山間集落地区  |
| ● 学術・医療地区   | ● 森林・丘陵緑地 |
| ● 健康・スポーツ地区 | ● 公園緑地    |
| ● 工業地区      | ● 河川      |
| ● 流通業務地区    | ● 交通施設用地  |
| ● 複合産業地区    |           |

道路種別

- |           |
|-----------|
| —— 高速道路   |
| —— 高規格道路  |
| —— 主要幹線道路 |
| —— 幹線道路   |

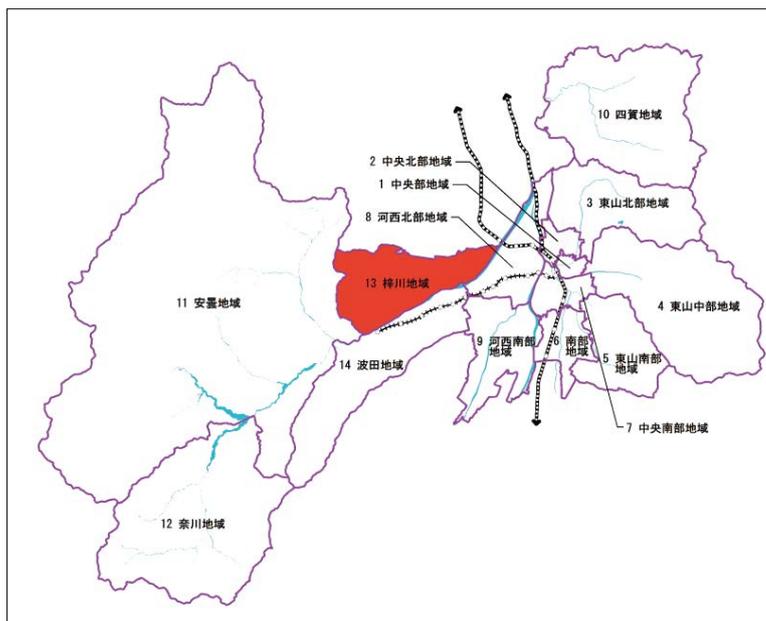
## 13 梓川地域（梓川地区）

### （1）地域の概況

梓川地域は、北アルプス槍ヶ岳を源とする清流梓川の恵みによって形成された扇状地帯で、りんご畑と水田がひろがる農業の盛んな地域です。

特に、りんごは全国に先駆けて「わい化栽培」を取り入れ、味、品質ともに日本一と賞され、昭和59年の農林水産祭で「天皇杯」を受賞しています。

また、長野自動車道松本インターチェンジに近いという立地条件などにより、集中的に工場が進出し「倭工業団地」が形成されています。



農業基盤整備事業の行われた農地と、一般住宅の開発地が調和した営農環境及び田園景観の保全が課題となっています。また、松本市西部地域における交通空白を解消するため、西部地域コミュニティバスが運行されていますが、生活を支える移動手段の利便性の維持、向上が引き続き課題となっています。

### （2）地域別構想

#### ① 将来像

#### 「美しい川に育まれた 活力ある農業のまち」

- 安曇野の田園風景を保全したうるおいのあるまち
- 地域を支える農業のさかんなまち
- 梓川や緑豊かな森林の自然環境とふれあえるまち

#### ② まちづくりの方針

松本市の活力ある農業のまちとして、地域の産業を支える農業環境を保全し、居住環境と調和したうるおいあるまちを形成していきます。

平坦地に形成された集落の広がりを考慮して、持続的な交通サービスの構築を図ります。

### ③ 拠点形成と土地利用

本地域の拠点及び土地利用区分を次のように定めます。

拠点形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コミュニティ拠点（梓川支所・梓川地区地域づくりセンター周辺）</li> <li>● 産業・研究拠点（倭工業団地）</li> <li>● 自然交流拠点（梓川ふるさと公園）</li> </ul>		
土地利用	都市的開発整備ゾーン	商業業務系	—
		産業系	工業地区（倭工業団地）
		住宅系	—
	農業環境保全ゾーン		田園集落地区（梓川地域一帯に広がる農地、農村集落）
自然環境保全ゾーン		森林・丘陵緑地（西部森林地域）	



梓川支所



梓地区の集落

### ④ 整備方針

#### 【施設整備】

#### ○ 幹線道路網の形成

- 地域の暮らしや企業活動を支える幹線道路の整備を推進します。
- 波田駅周辺につながる幹線道路について、歩行者と自転車の安全の確保を促進します。

#### ○ 下水道施設の適正な維持管理

- 既存の公共下水道施設の適正な維持管理に取り組みます。

#### ○ 持続可能な水道事業の推進

- 適切な維持管理を継続し、安全・安心な水道水の安定供給を図ります。

#### ○ 土砂災害の防止・被害の低減

- 土砂災害警戒区域・特別警戒区域における危険周知、避難体制整備、開発制限等の対策を推進します。

**【公共交通】**

## ○鉄道に接続するバス路線の利便性の維持、充実

- アルピコ交通上高地線への接続により中心市街地への移動や生活関連施設への移動を担うバス路線について、利用状況等を考慮した利便性の向上を検討します。

**【環境保全形成】**

## ○農業景観と調和する宅地景観の形成

- 農業として利用すべき土地を保全し、適正な農業生産と居住環境の住み分けを図ります。
- 既存集落における屋敷林や、境内林の保全を図ります。
- 市街地の周りに広がる田園景観と調和するように住宅や商工業地の景観形成を図ります。

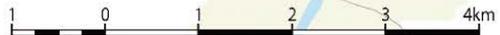
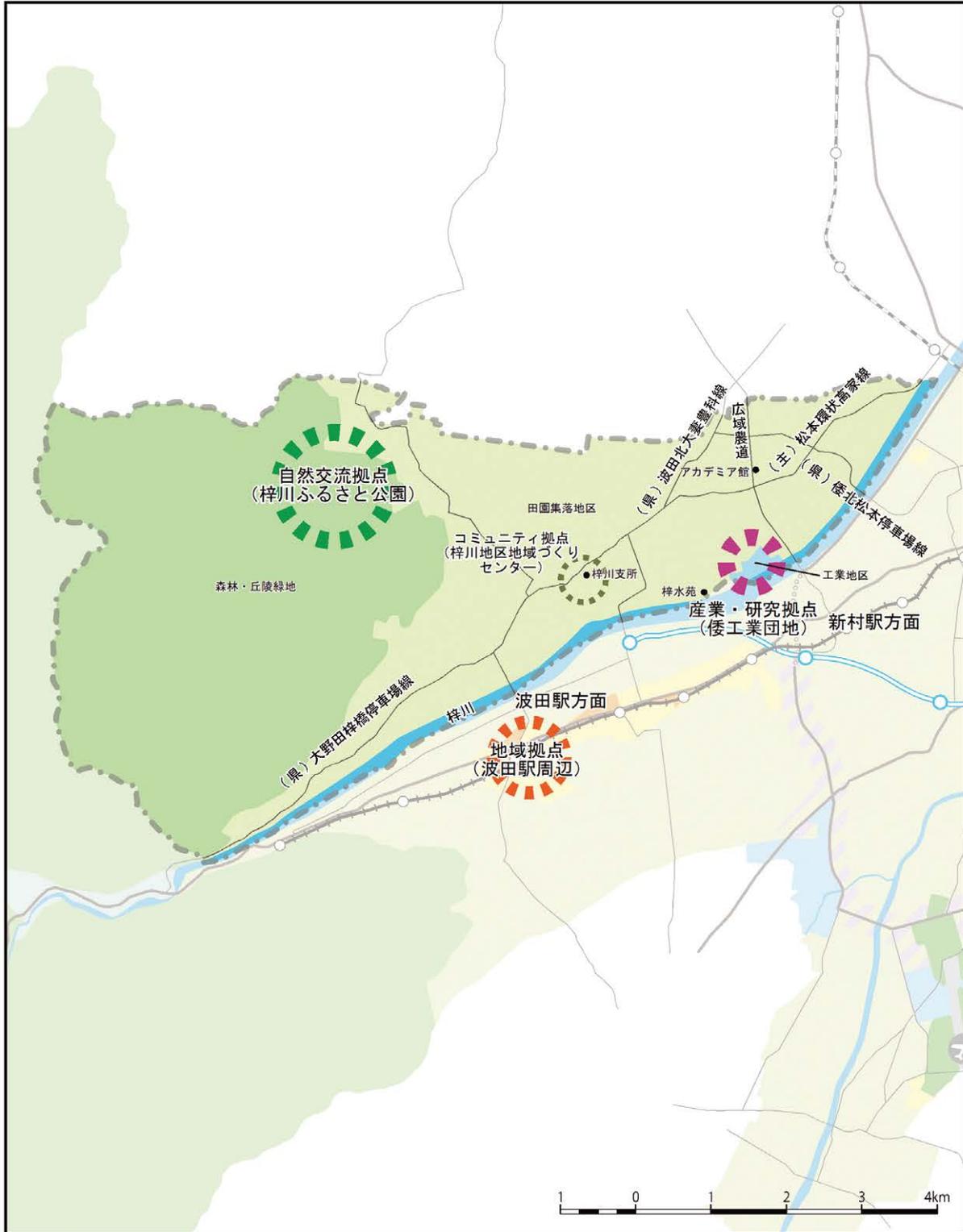
## ○貴重な自然環境の保全

- 美しい山岳景観を形成する西部の森林地域の保全を図ります。
- 梓川では生物が生息できるような環境の保全を図ります。

## ○農業基盤整備された農地の保全

- 農業基盤整備事業が行われた農地は、優良農地として保全・活用を図ります。

●梓川地域 整備方針図



凡例

土地利用区分

- |             |           |
|-------------|-----------|
| ■ 中心商業業務地区  | ■ 都市型住宅地区 |
| ■ 都市型複合業務地区 | ■ 低層住宅地区  |
| ■ 複合業務地区    | ■ 田園集落地区  |
| ■ 地域商業地区    | ■ 山間集落地区  |
| ■ 学術・医療地区   | ■ 森林・丘陵緑地 |
| ■ 健康・スポーツ地区 | ■ 公園緑地    |
| ■ 工業地区      | ■ 河川      |
| ■ 流通業務地区    | ■ 交通施設用地  |
| ■ 複合産業地区    |           |

道路種別

- 高速道路
- 高規格道路
- 主要幹線道路
- 幹線道路

公共交通

- 鉄道 (JR)
- 鉄道 (その他)

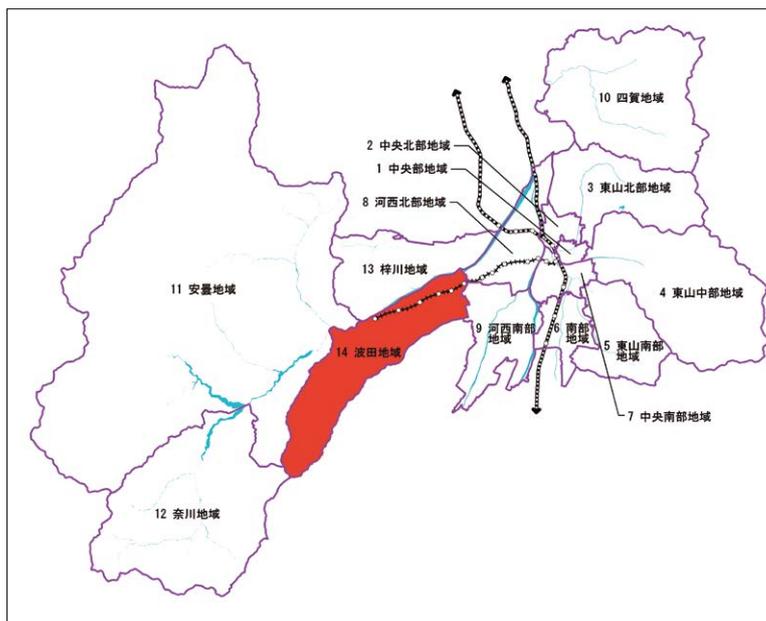
## 14 波田地域（波田地区）

### （1）地域の概況

波田地域は、上高地・乗鞍高原の玄関口に位置し、梓川の河岸段丘に形成された地域で、全国的にもスイカの名産地として知られるなど、農業が盛んな地域です。

本地域は、アルピコ交通上高地線及び国道158号を交通の軸として、波田駅周辺には波田支所や松本市立病院、波田文化センターなどの公共施設があり、松本市西部地域の生活の核となる地域です。

少子高齢化の進行を見据えて、生活を支える鉄道、バスなどの移動手段の利便性の維持、向上が引き続き課題となっています。



### （2）地域別構想

#### ① 将来像

#### 「美しい田園・河岸段丘に育まれた西部地域における生活拠点」

- 鉄道駅を中心とした、緑豊かで暮らしやすいまち
- 田園風景・河岸段丘を保全したうまいのあるまち
- 地域を支える農業のさかんなまち

#### ② まちづくりの方針

鉄道駅周辺は医療・福祉施設や学校施設、商業施設が立地した生活の中心機能の維持・充実を図るとともに、郊外は活力ある農業のまちとして農地の保全と営農環境の整備を図り、居住環境と調和したまちを形成していきます。

### ③ 拠点形成と土地利用

本地域の拠点及び土地利用区分を次のように定めます。

拠点形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域拠点（波田駅周辺）</li> <li>● コミュニティ拠点（波田支所・波田地区地域づくりセンター周辺）</li> <li>● 医療拠点（松本市立病院）</li> </ul>		
土地利用	都市的開発整備ゾーン	商業業務系	地域商業地区（波田駅前）、複合業務地区（波田駅周辺、国道158号沿道）
		産業系	—
		住宅系	低層住宅地区（鉄道駅周辺）
	農業環境保全ゾーン	田園集落地区（平坦地域）	
自然環境保全ゾーン	森林・丘陵緑地（西部森林地域）		



波田駅周辺（地域拠点）



アルピコ交通上高地線

### ④ 整備方針

#### 【施設整備】

#### ○幹線道路網の形成

- 中部縦貫自動車道（松本波田道路）、国道158号の渋滞対策道路、南北方向の幹線道路の整備を促進します。

#### ○交通の安全性の向上

- 国道158号や生活道路等における、自動車・歩行者・自転車交通の安全性の向上や交通環境の整備を進めます。

#### ○波田駅周辺における拠点機能の充実・連携

- 地域の生活を支える施設が集積している波田駅周辺において、市立病院の建替えを推進するとともに、各施設の連携と利便性を高めていくために、安全に歩いて移動できる方策を検討します。
- 河岸段丘地形に施設が配置されてきた波田駅周辺においては、土砂災害特別警戒区域及び土砂災害警戒区域が指定されていることを踏まえ、安全対策を適切に行いながら、市立病院などの拠点整備を進めます。

#### ○地域産業育成・観光交流のための施設整備

- 波田インターチェンジ周辺については、良好な営農環境と調和した適正な土地利用を検討します。

### ○散策路の形成

- 鉄道駅を起点として、旧野麦街道や波多神社等の社寺、梓川沿いなどの地域資源を巡る散策路の整備を進めます。

### ○市街地における防災・避難空間の充実等

- 災害発生時の市街地における防災・避難空間の充実等に向けて、狭あい道路の拡幅を推進します。

## 【公共交通】

### ○鉄道の利便性の向上

- 都市中心拠点へのアクセス性の維持・向上に向け、交通事業者等との連携によるアルピコ交通上高地線の利便性向上を図ります。

### ○鉄道に接続するバス路線の利便性の維持、充実

- アルピコ交通上高地線への接続により中心市街地への移動や生活関連施設への移動を担うバス路線について、利用状況等を考慮した利便性の向上を検討します。

## 【環境保全形成】

### ○活力ある駅前づくりと快適な商業空間の形成

- 駅周辺の地域商業地区では、歩行者が快適に居心地よく歩ける道路空間の整備、街路の緑化等により、うるおいと賑わいのある駅前商業地景観の形成を図ります。

### ○田園集落景観の保全

- 田園と調和する緑豊かな落ち着いたきのある住宅の景観形成を図ります。
- 既存集落における屋敷林や境内林の保全を図ります。

### ○歴史的資源の保全と活用

- 旧野麦街道の街並みや若沢寺跡等の歴史的資源の保全を図ります。

### ○貴重な自然環境の保全

- 梓川での動物が生息できるような水質の改善や環境整備を促進します。
- 波田地域の景観を特徴付けている段丘の緑地の保全を図ります。
- 美しい山岳景観を形成している西部の森林地域及び波田地域の水源である黒川の自然環境を保全します。
- 市街化調整区域の幹線道路沿道では、田園環境・景観の保全を図ります。

### ○農業基盤整備された農地の保全

- 農業基盤整備事業が行われた農地は、農地が持つ食料生産機能・緑豊かな景観の形成等、多面的な機能を低下させることのないよう、優良農地として保全・活用を図ります。

●波田地域 整備方針図



凡例

土地利用区分

- |             |           |
|-------------|-----------|
| ● 中心商業業務地区  | ● 都市型住宅地区 |
| ● 都市型複合業務地区 | ● 低層住宅地区  |
| ● 複合業務地区    | ● 田園集落地区  |
| ● 地域商業地区    | ● 山間集落地区  |
| ● 学術・医療地区   | ● 森林・丘陵緑地 |
| ● 健康・スポーツ地区 | ● 公園緑地    |
| ● 工業地区      | ● 河川      |
| ● 流通業務地区    | ● 交通施設用地  |
| ● 複合産業地区    |           |

道路種別

- 高速道路
- 高規格道路
- 主要幹線道路
- 幹線道路

公共交通

- 鉄道 (JR)
- 鉄道 (その他)

## コラム

## 地域別構想の地域区分について～隣接地域との連携～

## 地域別構想の14地域区分の考え方

14地域の区分は、都市計画としての区分（都市計画区域内・外、市街化区域内・外）だけでなく、実際の土地利用状況や35地区を中心とした日常生活の範囲、合併の経緯などを考慮して設定しています。

最初のマスタープランである松本市都市計画基本方針（H11.5策定）や旧計画（H22.3策定、H25.3改定）においても、このような考え方で地域を区分し、住民の皆様と意見交換をしながら、各地域の将来像やまちづくりの方針を定めてきました。

一方で、より効果的な施策としていくためには、本計画上の14地域内にこだわることなく、複数地域にまたがる取組みを進めていくことにも配慮する必要があります。

## 隣接地域との連携について

## ●東山北部地域と東山中部地域（温泉街から美ヶ原高原まで一体的な活性化）

東山地域には、松本の奥座敷と呼ばれる浅間温泉や奈良時代から松本城主の庇護を受けてきた美ヶ原温泉などの歴史ある温泉街や、松本文化会館、松本市野球場、かりがねサッカー場をはじめとする文化・スポーツ施設など多くの観光資源や観光施設があります。これらの施設がより一層の魅力向上と機能向上を進めていくためには、周辺施設との連携により、更なる一体的な取組みを進めていく必要があります。

このことを踏まえ、浅間温泉・美ヶ原温泉及び周辺のスポーツ施設一帯を、健康・スポーツ地区として位置付け、温泉施設と連携した健康づくりのための空間形成を進めることとしました。また、美ヶ原高原と市街地とのアクセス性の向上による冬季利用や自転車利用など、市街地から高原への近接性を活かした一体的なプロモーションを進めていくことを見据え、両地域の地域別構想を策定しています。

## ●安曇地域と奈川地域（西部山岳地域としての連携）

平成17年に合併した安曇地域と奈川地域は、本計画では別地域として地域別構想を定めています。安曇地域では、上高地・乗鞍高原・白骨温泉など日本を代表する国立公園、また世界に誇れる観光地としての取組みを進めていること、奈川地域では山々に囲まれた深谷地で歴史的街道沿いの集落として生活・風土や伝統・文化とともに地域資源が培われてきたことを踏まえ、それぞれ将来像とまちづくりの方針を定めました。

一方で、両地域に共通する課題もあります。観光客の減少、人口減少・少子高齢化、就労の場の確保、幹線道路の整備促進などは両地域に共通する課題であり、西部山岳地域として一体的な取組みが必要となっています。今後は、それぞれの特性を活かしつつ、相互の連携を図ることが更なる地域づくりに繋がること<sup>つな</sup>から、両地域の地域別構想では連携という言葉を用いました。両地域が一体的な山岳リゾート（アルプスリゾート）として連携し、自然環境資源の利用と保全の好循環が生まれるように行政と住民と関係団体による協働の取組みが求められています。

このように、各地域の特性にあわせた記載をしつつ、隣接地域間の整合性や一体性に配慮した総合的な取組みを見据えながら地域別構想を定めています。